

令和 4 年度使用
中学校用教科用図書研究報告書

国語

書写

社会（地理的分野・歴史的分野・公民的分野）

地図帳

数学

理科

音楽（一般・器楽）

美術

技術・家庭（技術分野・家庭分野）

保体

外国語（英語）

道德

教科用図書児湯地区採択協議会専門委員会

【採択の基準】

ア	教育基本法、学校教育法に基づき公示された中学校学習指導要領に示されている各教科の目標を十分達成できるものであり、生徒の発達段階に応じた指導を行うために、系統的に編集されていること。
イ	教材の内容等が充実しており、各教科等で身につけさせたい資質・能力を育成するための指導の充実につながるものであること。
ウ	指導者及び児童にとって、使用上の利便性があり、生徒にとってわかりやすいものであること。
エ	地域の思いや願い、児童生徒の実態等に考慮すること。

【調査研究の観点】

項目	観点
1 教科目標の達成及び教材の構成・配列等	1 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。 【基準ア】
2 内容や指導の充実	〈全教科〉 2 -(1) 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身につけさせるために、どのような工夫が見られるか。 〈道徳科〉 2 -(2) 主体的に自分とのかかわりで考えたり、多面的・多角的に考えたりできるような学習活動を展開するために、どのような工夫が見られるか。 【基準イ】
3 利便性の向上	3 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとってわかりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。 【基準ウ】
4 地域の思いや願いに対する配慮	4 問題解決に向け、必要な情報を読み取り、考えを深め、判断し、積極的に表現する資質・能力を高めるためにどのような工夫がみられるか。 【基準エ】

研究報告書

国語

1 教科目標の達成及び教材の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 国語科の目標を達成するために、「学びの扉」、「学びを支える言葉の力」で習得した基礎的な資質・能力が「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各教材の中で活用できるような構成の工夫が見られる。 また、「読むこと」で習得した「言葉の力」を、その後の「書くこと」や「話すこと・聞くこと」の教材で活用できるようにするなど、領域間でつながるような配列の工夫が見られる。
15 三省堂	(1) 国語科の目標を達成するために、「目次」で標準的なカリキュラムを示すとともに、「本編」では必修の学習内容を扱い、「資料編」では学習を支える資料を示すなど、弾力的なカリキュラムマネジメントが可能となる構成の工夫が見られる。 また、生徒の発達段階や学年の特性、学校生活や行事等を考慮しながら、単元の系統性を明確にして、どの学年においても、同じ時期に同じ領域が学習できるような配列の工夫が見られる。
17 教 出	(1) 国語科の目標を達成するために、必須教材を単元化した「本教材」と、学習時期を柔軟に扱ったり、補充等として扱ったりする「小教材」「資料」に分けるなど、学習内容に応じて効率的に学習計画が組み立てられるような構成の工夫が見られる。 また、「目次」では単元で取り上げている話題・内容に応じたキーワードを示すことで、生徒が様々な課題について考え、学習できるような配列の工夫が見られる。
38 光 村	(1) 国語科の目標を達成するために、教材を「本教材」「小教材」「コラム」「特設教材」で構成するなど、習得した「知識及び技能」を活用して「思考・判断・表現」を繰り返すことができるような構成の工夫が見られる。 また、「言葉による見方・考え方」を育成に向け、各領域が特定の時期に偏ることがないように年間8系列のテーマをバランスよく学習できる配列の工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 教科書全体を通して、生徒が日常生活で陥りがちなつまずきの場면을「学びの窓」で扱い、言葉の使い方に関する課題を主体的に発見できるような工夫が見られる。 また、課題解決的な言語活動が数多く設けられ、対話を通して学びを深められるなど、主体的・対話的で深い学びを展開できるような工夫が見られる。 (2) 情報の整理の仕方や情報と情報の関係の捉え方を生徒にとって身近な例を題材に取り上げて学べるようにするなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 「言葉の力」と対応する「目標」が教材冒頭に示され、生徒が「言葉の力」を意識しながら学習に臨めるような工夫が見られる。 また、教材末尾には記述式の「振り返り」が設けられ、「言葉の力」の確実な習得を促し、自己評価ができるようにするなど、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成する工夫が見られる。
15 三省堂	(1) 各学年巻頭の「領域別教材一覧」と各教材冒頭に目標を示し、見通しをもって主体的に学習に取り組めるようにするなどの工夫が見られる。 また、各学年の第1単元に「グループディスカッション」を設け、「話し合いのこつ」に系統性を持たせるなど、主体的・対話的で深い学びを展開できるような工夫が見られる。 (2) 教材で使われている言葉を多様な観点から豊かにする「語彙を豊かに」を設けるなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 教材を通して読み方の方法を示した「読み方を学ぼう」を設定し、各学年の巻末にはその一覧を示して、既習事項を繰り返し確認しながら学習できるなどの工夫が見られる。 また、「読み方を学ぼう」では「こんなときに使える」を示し、様々な場面で活用できるようにしているため、自分の力を伸ばしていけるなど、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成する工夫が見られる。

17 教 出	(1) 各教材冒頭に「学びナビ」を設け、文章を読む前や言語活動に取り組む前に、学習の視点を理解することで、学習に見通しをもって主体的に学習に臨めるような工夫が見られる。 また、「読むこと」教材の「みちしるべ」など、各教材の学習活動や生徒の交流活動で相互に課題を交換しながら主体的・対話的で深い学びを展開できるような工夫が見られる。 (2) 各学年、各単元に設定したキーワードと教材の話題に関連した図書を「広がる本の世界」として紹介するなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 全国学力・学習状況調査等での「思考力問題」を解決する「学びのチャレンジ」を示し、多様なテキストを組み合わせることで問題の解決に当たるような工夫が見られる。 また、社会における表現力等の必要性を取り上げたコラム教材「言葉と社会」は、生きて働く力や求められる表現力等、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成する工夫が見られる。
38 光 村	(1) 各教材のてびきとなる「学習」のページに「目標」から「振り返る」までの学習過程が見開きで一覧でき、分かりやすく示すことで、主体的に学習に臨めるような工夫が見られる。 また、「学習の窓」で図解入りの解説を用いて汎用的な読みのポイントを分かりやすくするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。 (2) 古典学習では、美しい韻律を味わえるようにQRコードで朗読音声を聞けるようにするなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 巻頭に「思考の地図」を設け、思考ツールなどを用いて情報を視覚化したり、情報を整理したりしながら共有する方法の工夫が見られる。 また、「思考の地図」が示す様々な思考法を使って、場面や状況に応じて生徒が活動に合わせて活用できるなど、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成する工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 生徒が身に付けたい言葉の力への気付きを促すために、教材の前に「学びの扉」を設け、巻末の「学びを支える言葉の力」で身に付けた力を図るなど、学習効果や利便性を高める工夫が見られる。 また、生徒が自分でまとめを行えるようにするために、各教材のポイントや身に付けたい資質・能力を「言葉の力」にまとめるなど、生徒にとって分かりやすい工夫が見られる。
15 三省堂	(1) 生徒が見通しをもって学習に臨めるように、「目標の確認」から「学びを振り返る」までの学習の流れを、教材の後の「学びの道しるべ」に示すなど、学習効果や利便性を高める工夫が見られる。 また、生徒自身が考えを整理するために、「学びの道しるべ」の課題と関連付けた「思考の方法」を図示するなど、生徒にとって分かりやすい工夫が見られる。
17 教 出	(1) 生徒が教材を深く読めるように、教材の前に「学びナビ」を設けて、「何を学ぶか」を示し、「何が」、「どのように」書かれているかを自主的に学べるようにするなど、学習効果や利便性を高める工夫が見られる。 また、生徒が自分で読む手助けとするために、「学びナビ」の「ここが大事」と関連付けた教材の後の「みちしるべ」を設定するなど、生徒にとって分かりやすい工夫が見られる。
8 光 村	(1) 生徒が主体的に学ぶことができるように、教材の後に「学習」を設けて、学びを深めるための学び方や学習の流れを示して、見通しをもって学習に臨むことができるようにするなど、学習効果や利便性を高める工夫が見られる。 また、「学習の窓」で「学習で用いる言葉」を説明し、生徒が学習用語を使用語彙として蓄積できるようにするなど、生徒にとって分かりやすい工夫が見られる。

4 地域の思いや願いに対する配慮

〔観点4〕 問題解決に向け、主体的に学び、情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるためにどのような工夫がみられるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 「話す・聞く」「書く」「読む」教材の冒頭において身に付けたい学びのポイントとなる「問いかけ」を提示し、生徒が課題意識をもって主体的に学ぶことができるような工夫が見られる。 (2) 巻末の「学びを支える言葉の力」において、情報の整理の仕方や登場人物の人物像を捉えるポイントなどを整理しており、学びを深め、必要な情報を的確に読み取らせる工夫が見られる。 (3) 各単元の「てびき」において、学んだことや考えたことを単元末に整理し話し合う場を設定しており、積極的に表現する力を高める工夫が見られる。
15 三省堂	(1) 各単元の冒頭に目標を示すとともに、学習の流れを示した「学びの道しるべ」を基に、学習の見通しをもって主体的に学ぶことができるような工夫が見られる。 (2) 「読み方を学ぼう」では、文章と図表との関連など「何をどのように読めば力がつくのか」という読み方の方略を図解で示しており、情報を的確に読み取らせる工夫が見られる。 (3) 日常生活や現代社会における課題を取り上げ、その課題解決について対話をとおして考える場を設定しており、積極的に表現する力を高める工夫が見られる。
17 教 出	(1) 内容を深く読み取ったり、学習内容を認識したりするためのポイントを各単元冒頭の「学びナビ」において示すことで、生徒が自覚的に学ぶための「知識」と「方法」が示されている。 (2) 自分の力で様々な文章や図表を読み取りながら思考・判断し、考えを表現する問題を集めた「学びのチャレンジ」を設定し、必要な情報を的確に読み取らせる工夫が見られる。 (3) 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元において学習の過程を提示し、その中でのポイントについて重点的に解説を加えることで、積極的に表現する力を高める工夫が見られる。

38 光 村	(1) 各教材の末の「学習」（手引き）において、学習の流れを上段に、下段に課題解決のポイントとなる図解等を示すことで、学習を見通しながら主体的に学ぶことができるような工夫が見られる。 (2) 「情報整理のレッスン」等において、新聞やネットニュースなど多様な媒体から必要な情報を的確に読み取らせたり、論理的思考力を養ったりする工夫が見られる。 (3) 「もっと伝わる表現を目ざして」や巻末の「語彙を豊かに」において、相手により伝わる言葉の理解を深め、様々な言葉や表現を知ること、積極的に表現する力を高める工夫が見られる。
--------	--

研究報告書

書写

1 教科目標の達成及び教材の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 単元の構成に関しては、学習の流れを「見つける」「確かめる」「生かす」などの段階に分け学習を進めることで、学習のめあてに到達させるような工夫が見られる。 また、単元の配列については、「書写のかぎ」で習得したことを基に、国語科等と連動する言語活動「生活に広げよう」を配置することで、日常生活に生きて働く力を育成するような工夫が見られる。
15 三省堂	(1) 単元の構成に関しては、学習の流れを「確かめる」「見つける」「振り返る」などの段階に分け学習を進めることで、学習のめあてに到達させるような工夫が見られる。 また、単元の配列については、毛筆で書いて習得したことを基に、硬筆による書き込みページ「書いて身につけよう」を配置することで、日常生活に生きて働く力を育成するような工夫が見られる。
17 教 出	(1) 単元の構成に関しては、学習の流れを「考える」「生かす」「振り返る」などの段階に分け学習させることで、学習のめあてに到達させるような工夫が見られる。 また、単元の配列については、習得した知識や技能を基に、多様な学習活動や日常生活の場面を想定した言語活動を配置することで、日常生活に生きて働く力を育成するような工夫が見られる。
38 光 村	(1) 単元の構成に関しては、学習の流れを「考える」「確かめる」「生かす」などの段階に分け学習を進めることで、学習のめあてに到達させるような工夫が見られる。 また、単元の配列については、国語科で学習した内容を基に、伝統的な言語文化が意識できる「季節のしおり」などを配置することで、日常生活に生きて働く力を育成するような工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近な硬筆文字の比較から課題を発見させたり、話し合い活動を通して、評価のための振り返りをさせたりする工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「書写のかぎ」を用いて単元のポイントを理解させたり、ポイントを動画で確かめながら文字を書かせたりする工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「書写活用ブック」等を用いて情報を効果的に発信させようとする工夫が見られる。
15 三省堂	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、課題を指でなぞってイメージをつかませたり、理由を含めた話し合い活動を通して、自己の考えを確かにしたりする工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、短い言葉を用いて書き方のポイントを理解させたり、同じ特徴の文字を用いてポイントを再度確認させたりする工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、便箋、封筒、はがきなどの書式等を用いて実生活につなげようとする工夫が見られる。
17 教 出	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、学習のプロセスを明確にして見通しをもたせたり、試し書きとまとめ書きの比較を通して、変容を評価させたりする工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、簡単な言葉を用いて適切な運筆を理解させたり、毛筆の前後に硬筆で同じ文字を練習させて関連を図ったりする工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各教科等とのつながりを意識し、教科横断を図ろうとする工夫が見られる。

38 光 村	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、写真解説で学習段階を示したり、冒頭で文字の原理を話し合うことを通して、確認したことを踏まえ毛筆につなげたりする工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「学習の窓」を用いて単元のポイントを理解させたり、毛筆の学習を書写ブックに設定した硬筆課題につなげたりする工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、目的に応じて文字を使い分けるコーナーを設けるなど、文字への関心を高めようとする工夫が見られる。
--------	---

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 毛筆の学習内容を同じ位置に配置したり、利き手を配慮した書き込み欄を設けることで、円滑に活動できるようにしたりしている。 また、毛筆教材を実際の半紙に書いた手本に近い大きさを示したり、運筆動画を用いた学習ができるようにしたりするなど、学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすい工夫が見られる。
15 三省堂	(1) 硬筆教材の書き込み欄を多く設けたり、自分が学習したことを最後に書き留めたりすることで、到達度を確認できるようにしている。 また、最初の毛筆教材を実物大の手本で示したりするとともに、朱墨写真を用いて基本点画の運筆を理解できるようにしたりするなど、学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすい工夫が見られる。
17 教 出	(1) 硬筆教材の書き込み欄に、補助線を入れたり、試し書きと、まとめ書きを比較したりすることで、適切な評価を行いやすくしている。 また、毛筆教材を、半紙形を維持した紙面を用いることで、教材文字の観察がしやすくなったり、真上からの撮影動画を用いた学習ができるようになったりするなど、学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすい工夫が見られる。
38 光 村	(1) 硬筆教材を別冊にしたり、QRコードを毛筆教材と同じページに掲載したりすることで、個に応じた学習を進められるようにしている。 また、毛筆教材の手本の右上に穂先の動きを示したり、文字の中心に印をつけることで配置を意識させたりするなど、学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすい工夫が見られる。

4 地域の思いや願いに対する配慮

〔観点4〕 問題解決に向け、主体的に学び、情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるためにどのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 各単元の振り返りにおいて、自分が書いた文字を使って分かったことや考えたことを説明する「振り返って話そう」を設定しており、積極的に表現する力を高める工夫が見られる。
15 三省堂	(1) 各単元の振り返りにおいて、単元をとおして学んだことを書き表すコーナーを設定しており、積極的に表現する力を高める工夫が見られる。
17 教 出	(1) 複数の単元において、気付いたことや考えたことを書き込む欄や話し合い活動の場面を設定しており、積極的に表現する力を高める工夫が見られる。
38 光 村	(1) 単元の冒頭「考えよう」において、文字の特徴や書き方について考えたり話し合ったりする活動を位置付けており、積極的に表現する力を高める工夫が見られる。

研究報告書

社会（地理的分野）

1 教科目標の達成及び教材の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 社会科地理的分野の目標を達成するために、編（章）の構成は、課題をつかむ、課題を追究する、課題を解決するという流れで構造化され、単元を通して課題解決的な学習活動ができるようになっている。 また、見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、本文の理解を深める「地理にアクセス」コーナーなどで追究し、最後に、学習内容の定着を図る「チェック&トライ」コーナーに取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。
17 教 出	(1) 社会科地理的分野の目標を達成するために、章（節）の構成は、学習のテーマをつかむ導入ページ、本時ページとそれに関連した特設ページ、学習のまとめと表現ページとなっており、見通し・振り返りの学習活動に取り組みやすくなっている。 また、見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、興味・関心を喚起する「地理の窓」コーナーなどで追究し、最後に、学習内容を深める「確認!」「表現!」コーナーに取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。
46 帝 国	(1) 社会科地理的分野の目標を達成するために、章（節）の構成は、地域を概観するページ、地域的特色・課題を把握するページ、追究するページとなっており、主体的に異文化・国土理解を深められるようになっている。 また、見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、コラム「未来に向けて」などを活用して追究し、最後に、知識の確実な習得や言語活動につなげる「確認」コーナーに取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。
116 日 文	(1) 社会科地理的分野の目標を達成するために、章（節）の構成は、導入ページ、大観ページ、主題学習・動態地誌的学習のページ、ふりかえりページとなっており、生徒が学習を振り返られるようになっている。 また、見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、その手がかりとなる「見方・考え方」やコラム「地理+α」などで追究し、最後に、学習内容の理解を確かめる「確認」に取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。

※主題学習………地理的な主題（テーマ）を設定して学習する方法

※動態地誌的学習…地域の特色ある地理的事象や事柄を他の事象と有機的に関連付けて追究する活動を通して地域的特色をとらえさせる学習

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、各単元の導入において、地理的な「見方・考え方」を提示したり、キャラクターを用いて、単元全体を貫く「探究課題」を提示したりするなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、地理の学習に必要な資料の読み取り方やまとめ方を系統的に学習できるようにする「スキル・アップ」や、学習したことを確認できる「基礎・基本のまとめ」を設けるなどの工夫が見られる。 (3) 未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、多様な「思考ツール」を活用したり、先生キャラクターとの会話を通して、「見方・考え方」を活用した探究課題の解決を促したりするなどの工夫が見られる。
17 教 出	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、各地域の地域的特色を自然環境・人口・産業等に沿って、他の事象と有機的に関連付けながら追究するとともに、特設ページで当該地域の課題についても考えるなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、地図やグラフの近くに関連する課題を設けて理解を確認したり、適宜設けられた「地理の技」コーナーで、地理的技能を身に付けたりするなどの工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、本文の流れに即して資料を読み解きながら考察を深めたり、まとめたりする「読み解こう」のコーナーが設けられるなどの工夫が見られる。
46 帝 国	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、単元冒頭に学習の進め方や各地域で注目するテーマや視点を「序説 学ぶにあたって」として示し、生徒が学習の見通しをもちやすくするなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、本文中の用語を分かりやすく説明する「解説」のコーナーを設けたり、基礎的な技能を身に付けるための「技能をみがく」コーナーを設けたりするなどの工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、地図や写真、表等の様々な資料を活用して学習内容を説明する活動を設定するなどして、学びの振り返りができるような工夫が見られる。
116 日 文	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、各編の冒頭において、小学校で学習した内容を振り返るとともに、「この章で主に着目する見方・考え方」を明示し、学習への見通しをもたせるなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、地理的技能を身に付ける「スキルアップ」コーナーを設けたり、作業的な学習を取り入れる「トライ」コーナーを設けたりするなどの工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、振り返りの場面において、自分の考えを明確にし、他と協働して考える「チャレンジ地理」や「アクティビティ」コーナーを設けるなどの工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 全ての生徒が読みやすく分かりやすくするために、ユニバーサルデザインの視点から、地図やグラフ等には鮮やかで明るい色を使うなどの工夫が見られる。 また、他分野や他教科との関連を示す「関連マーク」が表示され、学習内容の関連性・系統性を意識したり、「二次元コード」を読み取って、インターネットを活用した振り返りや発展的な学習を行ったりできるような工夫が見られる。
17 教 出	(1) 全ての生徒が読みやすく分かりやすくするために、ユニバーサルデザインの視点を取り入れたり、8ページの折り込み写真資料を掲載したりするなどの工夫が見られる。 また、巻頭には小学校の学習を振り返るページを、見開きページ下には関連分野を掲載して学習内容の関連性・系統性を意識したり、「二次元コード」を読み取って、インターネットで資料を活用した学習を行ったりできるような工夫が見られる。
46 帝 国	(1) 全ての生徒が読みやすく分かりやすくするために、ユニバーサルデザインの視点から、グラフの折れ線を太く鮮明にするなどの工夫が見られる。 また、小学校の内容との関連を、部及び章の冒頭ページや見開きページ下で確認し、学習内容の関連性・系統性を図ったり、「二次元コード」を読み取って、動画などのコンテンツを活用した学習を行ったりできるような工夫が見られる。
116 日 文	(1) 全ての生徒が読みやすく分かりやすくするために、ユニバーサルデザインの視点から、重要語句には全てルビをつけるなどの工夫が見られる。 また、章ごとに色分けしたインデックスを、ページ右端に示すことで、学習している場所を明確にしたり、「Dマーク」のある箇所では、QRコードを読み込みんで、デジタルコンテンツ資料を活用した学習を行ったりできるような工夫が見られる。

※ユニバーサルデザインフォント… ユニバーサルデザインに対応して開発されたフォント（UDフォント）

※カラーユニバーサルデザイン … 色覚特性のある生徒でも見分けられる色の組み合わせからなるデザイン。

4 地域の思いや願いに対する配慮

〔観点4〕 問題解決に向け、主体的に学び、情報を的確に読み取ったり、考えを深め、判断し、積極的に表現したりする資質・能力を高めるためにどのような工夫がみられるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 情報を的確に読み取り、考えを深め、判断するために、「集める」「読み取る」「まとめる」のコーナーを適切に配置するなどの工夫が見られる。 (2) 積極的に表現する資質・能力を高めるために、「みんなでチャレンジ」を設け、自ら調べた情報をもとに話し合い等を行うことができるような工夫が見られる。
17 教 出	(1) 情報を的確に読み取り、考えを深め、判断するために、地図やグラフの諸資料や特設のページの最後に「Q」のコーナーを設ける工夫が見られる。 (2) 積極的に表現する資質・能力を高めるために、「学習のまとめと表現」を設け、学習した内容を文章や表にまとめたり、意見交換したりできるような工夫が見られる。
46 帝 国	(1) 情報を的確に読み取り、考えを深め、判断するために、「確認しよう」「説明しよう」を設定し、読み取りや説明の力を高める工夫が見られる。 (2) 積極的に表現する資質・能力を高めるために、「『地理的な見方・考え方』を働かせて説明しよう」を設定し、学習した内容を用いて説明したり、話し合ったりできるような工夫が見られる。
6 日 文	(1) 情報を的確に読み取り、考えを深め、判断するために「アクティビティ」のコーナーを設け、活動やシンキングツールを示す工夫が見られる。 (2) 積極的に表現する資質・能力を高めるために、「深めよう」のコーナーでは、学習した内容を用いて話し合ったり、説明したりすることができるような工夫がみられる。

研究報告書

社会（歴史的分野）

1 教科目標の達成及び教材の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章の構成は、単元を貫く課題をつかむ、課題を追究する、課題を解決するという流れで構造化されており、単元を通して課題解決的な学習活動ができるようになっている。 また、見開き1単位時間ごとに学習課題が設定され、本文の理解を深める「歴史にアクセス」コーナーなどで追究し、最後に、学習内容の定着を図る「チェック&トライ」コーナーに取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。
17 教 出	(1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章の構成は、学習のテーマをつかむ導入ページ、本時ページとそれに関連した特設ページ、学習のまとめと表現ページとなっており、見通し・振り返りの学習活動に取り組みやすくなっている。 また、見開き1単位時間ごとに学習課題が設定され、キャラクターの吹き出し内容などを基に追究し、最後に、学習内容を深める「確認!」「表現!」コーナーに取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。
46 帝 国	(1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章の構成は、章・節・見開きごとに問いと振り返りの学習を設け、それを積み重ねていくことで章の問いを自分なりに追究していくことができるようになっている。 また、見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、「年代インデックス」で時系列を確認しながら追究し、最後に、読解力や表現力等の育成を促す「確認しよう」「説明しよう」コーナーに取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。
81 山 川	(1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章の構成は、導入（日本史と世界史の帯年表）ページ、本文ページ、書き込み式のまとめページとなっており、世界史も含めた歴史の流れをつかむための工夫が見られる。 また、見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、本文やコラム、関連のグラフ、用語解説などで追究し、最後に、学習内容の定着をさらに深める「ステップアップ」コーナーに取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。

116 日 文	(1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、編の構成は、導入ページ、本文、チャレンジ歴史、本文、学習を振り返るまとめページとなっており、各時代に関する特色や流れを理解しやすくなっている。 また、見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、手がかりとなる「見方・考え方」や、「時代スケール」などを基に追究し、最後に、学習内容の理解を確かめる「確認」コーナーに取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。
225 自由社	(1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章の構成は、学習内容を予告する導入ページ、本文、調べ学習や知識の確認、時代の特徴を考えたりまとめたりするページとなっており、各時代の特色を捉えさせるための工夫が見られる。 また、見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、本文や関連する資料、キャラクターの吹き出し内容などを基に追究し、最後に、学習内容を確認する「チャレンジ」コーナーに取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。
227 育鵬社	(1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章の構成は、導入ページ、本文ページ、まとめのページとなっており、各時代の特色を明らかにした上で、歴史の大きな流れを捉える力を養うための工夫が見られる。 また、見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、本文の理解を助ける写真や表・グラフ・コラムなどで追究し、最後に、レポートや論述などでまとめる「学習のまとめ」に取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、第1編に、時期や年代の表し方を示したり、推移・比較・相互の関連等の歴史的な「見方・考え方」を説明したりすることで、その後の学習の手立てとして活用できる工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、学習したことを確認できる「基礎・基本のまとめ」のコーナーや、歴史の学習に必要な技能を身に付ける「スキル・アップ」コーナーを設けるなどの工夫が見られる。 (3) 未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、学習内容を「ウェビング」などの「思考ツール」を活用してまとめたり、文化史のコラム「もっと歴史」で思考を深めたりするなどの工夫が見られる。
17 教 出	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、冒頭の活動で歴史の流れを捉えたり、時期や推移、比較、関連等の歴史的な「見方・考え方」を具体的に確認したりすることで、学習の見通しをもたせるなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、節の学習を振り返る「〇節を捉える」コーナーを設けたり、適宜設けられた資料内容を読み取る「読み解こう」コーナーを設けたりするなどの工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、歴史を多面的・多角的に考察したり理解したりできるコラム「歴史の窓」や学習を振り返る「学習のまとめと表現」ページを設定するなどの工夫が見られる。
46 帝 国	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、冒頭で歴史の流れや歴史の調べ方、また、歴史的な「見方・考え方」などについて詳しく示し、学習の見通しをもちやすくするなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、節の学習を振って説明する「第〇節の問いを振り返ろう」を設けたり、基礎的な技能を身に付けるための「技能をみがく」を設けたりするなどの工夫が見られる。 (3) 未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、言語活動を促す「章の学習を振り返るページ」や学習した内容をさらに深める「多面的・多角的に考えてみよう」コーナーを設けるなどの工夫が見られる。

81 山 川	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、様々な資料を基に提示された課題について、話し合ったり考察を深めたりする「歴史を考えよう」コーナーを、章ごとに設定するなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、冒頭で、歴史を学ぶための基礎知識と調べ方を示した「歴史との対話」を設けたり、同時代の日本と世界を捉える「〇〇世紀の世界」のページを設けたりするなどの工夫が見られる。 (3) 未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各単元の導入の発問や図版の近くに設けた発問など、各所に設けた発問について自ら考えさせるなどの工夫が見られる。
116 日 文	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、冒頭で、時系列・推移・比較・つながりという4つの歴史的な「見方・考え方」を明示したり、キャラクターが「見方・考え方」の活用に関する具体例を示したりするなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、「スキルアップ」コーナーで調べ学習のポイントや系図の見方などを身に付けたり、巻末の歴史学習の基礎資料ページを活用したりできるなどの工夫が見られる。 (3) 未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「先人に学ぶ」「女性史コラム」「地域に学ぶ」等を掲載し、当時の人物の偉業等と現在とのつながりを意識できるような工夫が見られる。
225 自由社	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、各章のはじめに、「予告編」の年表で学習する時代を大観したり、各章の終末で「対話とまとめ図のページ」を設けて学習内容を振り返ったりするなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、「もっと知りたい」のページで学習内容に関連するコラムを設けたり、各章の終末で、「復習問題のページ」を活用して学習内容の定着を図ったりできるような工夫が見られる。 (3) 未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「外の目から見た日本」や「人物クローズアップ」のページを設け、歴史的事象を様々な資料から深く学び考えられるような工夫が見られる。
227 育鵬社	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、自分なりの価値判断をする「歴史のターニングポイント」を設定したり主体的に時代の特色を捉える「『私の歴史博物館』をデザインしてみよう」を設定したりするなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、序章で歴史の流れ、年代や時代区分の表し方、「歴史ワクワク隊・6つの心得」において、歴史の学び方を示すなど、学習に必要なことを学ぶ工夫が見られる。 (3) 未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、巻末に「歴史新聞をつくろう」や「日本の歴史を大観する」ページを設定して、学んだことを自分の言葉で表現するなどの工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 全ての生徒が学習しやすくするために、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、インターネットのデジタル資料を活用した学習ができるなどの工夫が見られる。 また、ページ下の、学習内容を示す「チェックトライ」のコーナーで学習内容を振り返ったあとに、数ページ先の「探究のステップ」のページを示すなどして、発展的な学習が効率的に行えるような工夫が見られる。
17 教 出	(1) 全ての生徒が学習しやすくするために、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、見開きで設けた「時代スケール」に色付けをするなどの工夫が見られる。 また、巻頭で小学校の学習を振り返るとともに、ページ下には関連分野を示して学習内容の関連性・系統性を意識したり、「二次元コード」を読み取って、インターネットを活用した学習を行ったりできるような工夫が見られる。
46 帝 国	(1) 全ての生徒が学習しやすくするために、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、章の初めに、時代をイメージできる大判のイラストを用いるなどの工夫が見られる。 また、地図などの図版は、記号等が明瞭で、読み取りやすい配慮がなされていたり、「二次元コード」を読み取って、動画などのコンテンツ資料を活用した学習が行ったりできるような工夫が見られる。
81 山 川	(1) 全ての生徒が学習しやすくするために、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、用語解説のコーナーで、難解な用語を解説するなどの工夫が見られる。 また、小学校との接続に配慮し「歴史を大きく変えた人物」を巻頭に設けたり、「二次元コード」を読み取って博物館や資料館のホームページサイト及び、動画や音声を活用した学習を行ったりできるような工夫が見られる。
116 日 文	(1) 全ての生徒が学習しやすくするために、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、各単元の見出しやインデックス、ページを示す箇所の色を統一するなどの工夫が見られる。 また、小学校の学習内容との関連を図るために、巻頭で、既習の人物や文化遺産を振り返るとともに、QRコードを読み込んで、デジタルコンテンツ資料を活用した学習を行うなどの工夫が見られる。

225 自由社	(1) 全ての生徒が学習しやすくするために、本文の記述を補う注釈を入れたり、見開きで設けた「歴史モノサシ」に色付けをしたりするなどの工夫が見られる。 また、序章「歴史のとらえ方」のページでは、年代の表し方や時代区分、干支や暦などについて取り上げたり、巻末では元号と西暦早見表を掲載したりするなど、歴史の学習に取り組みやすくするための工夫が見られる。
227 育鵬社	(1) 全ての生徒が学習しやすくするために、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、部分的に拡大したり、読み取るための視点を示したりするなどの工夫が見られる。 また、巻頭では、小学校で学んだ人物とその似顔絵を掲載して既習事項との関連を図ったり、各章の初めには、親しみやすいイラストで描かれた「歴史絵巻」で歴史の大きな流れを捉えたりできるような工夫が見られる。

4 地域の思いや願いに対する配慮

〔観点4〕 問題解決に向け、必要な情報を読み取り、考えを深め、判断し、積極的に表現する資質・能力を高めるためにどのような工夫がみられるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 情報を的確に読み取り、考えを深め、判断するために、「まとめの活動」のコーナーを設け、思考ツールを使って学習内容を整理する工夫が見られる。 (2) 積極的に表現する資質・能力を高めるために「みんなでチャレンジ」のコーナーを設け、思考したり、読み取ったりしたことを意見交換できる工夫が見られる。
17 教 出	(1) 情報を的確に読み取り、考えを深め、判断するために、「Q」のコーナーを設け、時代の特徴を考察できるようにするなどの工夫が見られる。 (2) 積極的に表現する資質・能力を高めるために、「表現」のコーナーを設け、説明や話し合いなどの表現活動に取り組めるような工夫が見られる。
46 帝 国	(1) 情報を的確に読み取り、考えを深め、判断するために、本文ページ中の各種写真・統計類に「資料活用」のコーナーを適切に設ける工夫が見られる。 (2) 積極的に表現する資質・能力を高めるために、「章の学習を振り返ろう」では、難易度に応じ3段階のステップを設け、論理的な説明ができるような工夫が見られる。
81 山 川	(1) 情報を的確に読み取り、考えを深め、判断するために、社会的事象を時期・推移・因果関係・差異などに着目しつつ捉えることができる発問の工夫が見られる。 (2) 積極的に表現する資質・能力を高めるために、「まとめ」のコーナーを設け、比較や整理、対応策などを検討し、表現することができるような工夫が見られる。
116 日 文	(1) 情報を的確に読み取り、考えを深め、判断するために、「深めよう」や「アクティビティ」を設け、「見方・考え方」を働かせる問いを示す工夫が見られる。 (2) 積極的に表現する資質・能力を高めるために「チャレンジ歴史」を設け、歴史について自分で考えたり、意見交換したりできる工夫が見られる。
225 自由社	(1) 情報を的確に読み取り、考えを深め、判断するために、章末に「課題学習のページ」や「対話とまとめの図のページ」を設け、生徒の探究を促す工夫が見られる。 (2) 積極的に表現する資質・能力を高めるために、単元の末尾に「チャレンジ」を設け、知識の整理をしながら説明したり、表にまとめたりできる工夫がみられる。

227 育 鵬 社	(1) 情報を的確に読み取り、考えを深め、判断するために、「歴史のターニングポイント」を設け、様々な資料を基に考えることができる工夫が見られる。 (2) 積極的に表現する資質・能力を高めるために、「学習のまとめ」では、言葉や図で表すことなどによって、その時代の特色をとらえるための工夫が見られる。
-----------	--

研究報告書

社会（公民的分野）

1 教科目標の達成及び教材の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、課題をつかむ、課題を追究する、課題を解決するという流れで構造化されており、単元を通して課題解決的な学習活動ができるようになっている。 また、見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、「みんなでチャレンジ」や「見方・考え方」などで追究し、最後に、学習内容の定着を図る「チェック&トライ」コーナーに取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。
17 教 出	(1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、学習のテーマをつかむ導入ページ、本時ページとそれに関連した特設ページ、学習のまとめと表現ページとなっており、見通し・振り返りの学習活動に取り組みやすくなっている。 また、見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、キャラクターからの問いや「公民の窓」などで追究し、最後に、自ら考えたり他者と意見交換したりする「確認!」「表現!」コーナーに取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。
46 帝 国	(1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、章・節・見開きごとに問いと振り返りの学習を設け、それを積み重ねていくことで章の問いを自分なりに追究していくことができるようになっている。 また、見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、コラム「未来に向けて」などで追究し、最後に、読解力や表現力等の育成を促す「確認しよう」「説明しよう」に取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。
116 日 文	(1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、導入ページ、本文ページ、社会の課題を考える学習ページとなっており、段階的に「見方・考え方」の学習を行い、自ら考える力を身に付けることができるようになっている。 また、見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、「見方・考え方」を働かせる「アクティビティー」コーナーなどで追究し、最後に、学習内容の理解を確かめる「確認」に取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。
225 自 由 社	(1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、導入ページ、本文ページ、学習のまとめと発展のページとなっており、毎時間の学習内容を、章末で確認・定着できるような流れとなっている。 また、見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、複数の資料や「ミニ知識」コーナーなどで追究し、最後に、毎時間の学習内容の振り返りができる「ここがポイント」コーナーに取り組

	めるような構成・配列の工夫が見られる。
227 育鵬社	(1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、導入ページ（〇〇の入り口）、本文ページ、まとめのページ（〇〇のこれから）となっており、問題意識をもって学習に取り組めるような工夫が見られる。 また、見開きで1単位時間ごとに学習課題が設定され、「学習を深めよう」コーナーなどで追究し、最後に、レポートや論述でまとめる「学習のまとめ」に取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、持続可能な社会の実現に向けた課題を意識する「巻頭」や、地理・歴史・公民の3分野に関連した課題を考える「もっと公民」コーナーを設けるなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、公民の学習に必要な基礎的・基本的な技能を身に付ける「スキル・アップ」コーナーや主権者として社会に参画する態度を養う「18歳へのステップ」コーナーを設けるなどの工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各章の終わりで「マトリックス」や「トゥールミン図式」などを活用し、自分の考えをまとめたり、表現したりするなどの工夫が見られる。
17 教 出	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、各章のはじめのページ、見開きのページ、学習のまとめと表現のページにその章の学習に必要な「見方・考え方」を確認することで学習の見通しをもたせるなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、冒頭で「公民で意識したい具体的な『学び方』」コーナーを設けたり、技能や表現力を身に付ける「公民の技」コーナーを設けたりするなどの工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、身近な生活と結び付けて考える「読んで深く考えよう」やディベートやプレゼンテーションを行う「言葉で伝え合おう」を設けるなどの工夫が見られる。
46 帝 国	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、各部の学習の初めのページに示した町の様子やイラストから、学習内容につながる事項を見出したり、小学校の学習内容と関連して考えたりするなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、1単位時間の学習内容を定着させるコーナーを設けたり、随所に公民の学習に必要な基礎的な技能を身に付けるための「技能をみがく」コーナーを設けたりするなどの工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「Yes No」コーナーや「アクティブ公民」コーナーで、現代社会の様々なテーマについて考えることができるような工夫が見られる。

116 日 文	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、各編の最初のページには、その編の学習内容に関する「見方・考え方」をイメージできる漫画が掲載されており、学習への見通しをもたせるための工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、学習に必要な技能を身に付ける「情報スキルアップ」コーナーや、学習に関する事項について理解を深める「公民＋α」コーナーが設けられるなどの工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、課題について考える手助けとなる様々な「シンキングツール」を紹介して「学習の整理と活用」で学習内容を表現させるような工夫が見られる。
225 自由社	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、各単元において、身近な題材を取り上げたり、学んだことをもとに協働して思考ができるよう「アクティブに深めよう」を設けたりするような工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、重要な語句を確認したり、文章で記述したりする「学習のまとめと発展」のページや、単元に関連する内容を示したコラム「もっと知りたい」を設けるなどの工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、学んだことを活用して、自分の考えをまとめたり、討論したりする「課題の探求ページ」を巻末に設けるなどの工夫が見られる。
227 育鵬社	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、社会に見られる課題を把握したり、その解決に向けて構想したりする「やってみよう」や、章末に「〇〇のこれから」というコーナーを設けるなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、学習内容の理解へつながるキャラクターの吹き出しや、学習に必要な基礎的な技能を身に付ける「スキルアップ」コーナーを設けるなどの工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、参加型学習の「やってみよう」や、巻末で学習内容をレポートにまとめる「社会科のまとめ」を設けるなどの工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) すべての生徒が学習しやすくするために、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、資料に番号を付けて、本文と関連付けるなどの工夫が見られる。 また、他分野や他教科との関連を「関連マーク」で表示し、学習内容の関連性を意識したり、「二次元コード」を読み取り、インターネットを活用した学習を行ったりできるような工夫が見られる。
17 教 出	(1) すべての生徒が学習しやすくするために、各章の扉のページに、様々な活動場面の写真を掲載し、身近な生活と関わらせて、学習内容が想起できるような工夫が見られる。 また、巻頭Ⅲで「公民で学ぶ主要内容と学習の見通し」で、学習内容の系統性を意識したり、「二次元コード」を読み取り、インターネットを使った学習を行ったりできるような工夫が見られる。
46 帝 国	(1) すべての生徒が学習しやすくするために、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、資料の読みのポイントを示した「資料活用」を設けるなどの工夫が見られる。 また、図版は、記号等が明瞭で読み取りやすい配慮がなされていたり、「二次元コード」を読み取って、動画などのコンテンツ資料を活用した学習を行ったりできるなどの工夫が見られる。
116 日 文	(1) すべての生徒が学習しやすくするために、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、誌面の一部に点字加工を施すページを設けるなどの工夫が見られる。 また、巻頭にはSDGsについて紹介するページを設け、学習内容との関連を意識したり、QRコードを読み込み、デジタルコンテンツ資料を活用した学習を行ったりできるような工夫が見られる。
225 自 由 社	(1) すべての生徒が学習しやすくするために、イラストとともに章のタイトルや導入となるコメントを掲載し、全ての単元を連番で表示したりするなどの工夫が見られる。 また、本文の近くには、本文の内容を補う詳しい解説文が掲載されたり、各単元の重要語句はゴシック（太字）で示し、すべて巻末のさくいんに掲載したりする工夫が見られる。
227 育 鵬 社	(1) すべての生徒が学習しやすくするために、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、見開きごとの資料に通し番号を付け本文と関連付けるなどの工夫が見られる。 また、見開きページで、地理や歴史で学習した関連内容を紹介したり、各章の初めのページで、小学校で学習した内容を振り返ったりして、学びの系統性を意識できるような工夫が見られる。

4 地域の思いや願いに対する配慮

〔観点4〕 問題解決に向け、主体的に学び、情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるためにどのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 問題解決に向け、主体的に学ぶことができるようにするために、「探求課題」、「探求ステップ」、「学習課題」の3段階で問いや課題を構造化し、細かいステップで課題を解決していくことで、主体的な学びを保障する工夫が見られる。 情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるために、「みんなでチャレンジ」などの対話的な学習の場面を設けることで、表現力を培う工夫が見られる。
17 教 出	(1) 問題解決に向け、主体的に学ぶことができるようにするために、各章に学習内容と章全体の学習課題を掲載し、見通しをもたせながら学習を進めることができるような工夫が見られる。 情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるために、学習ごとに「確認」と「表現」コーナーを設け、学習した基礎的事項を基に、社会的事象の説明や話し合いなどの表現活動を取り入れた構成にするなどの工夫が見られる。
46 帝 国	(1) 問題解決に向け、主体的に学ぶことができるようにするために、各章において、「章の問い」「節の問い」「学習課題」を設定し、見通しをもって取り組むことができるような工夫が見られる。 情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるために、「技能をみがく」を設け、情報収集、資料活用能力を高めるための工夫が見られる。また、「アクティブ公民」を設け、学んだ知識・技能を基に言語活動の中で説明し、表現する活動を取り入れるなどの工夫が見られる。
116 日 文	(1) 問題解決に向け、主体的に学ぶことができるようにするために、各編冒頭に「学習のはじめに」を設け、学習課題や学習内容を具現化し、課題解決に必要な視点を明記するなどの工夫が見られる。 情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるために、「アクティビティ」や各章末に設けた「チャレンジ公民」において、学習した内容を基に社会の課題について考察・構想し、争点を明確にして話し合いを行うなどの工夫が見られる。
225 自由社	(1) 問題解決に向け、主体的に学ぶことができるようにするために、公民学習に重要なことを複数の単元で重ねて学習し理解を深めたり、「ミニ知識」のコラムを設けて公民に関わる重要な言葉を正確に理解したりすることができるなどの工夫が見られる。 発展的な学習や各章の最後において、レポート、卒業論文、ディベートなどの言語活動を取り入れ、学んだことを表現する活動を行うなどの工夫が見られる。
227 育鵬社	(1) 問題解決に向け、主体的に学ぶことができるようにするために、各章の導入に章全体の趣旨をとらえるための言語活動を取り入れることで、抽象的な社会的事象を具現化し、学習課題を明確化することで、学習への意欲を喚起するなどの工夫が見られる。 情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるために、章末に、社会的事象等の意味や意義、特色を考察したり、社会的な課題を解決するために、学んだことを基に構想し、ロールプレイングやディベートを行うなどの工夫が見られる。

研究報告書

地図帳

1 教科目標の達成及び教材の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 社会科の目標を達成するために、巻頭では、地図記号やさくいんの使い方など、地図帳の構成要素を解説するとともに、歴史・公民的分野で活用できる資料の例を示している。 また、地理的分野の教科書の構成に沿って、「世界」と「日本」に分けて構成されており、巻末には、授業で活用できる統計資料も多数掲載されている。 さらに、資料のポイントや「見方・考え方」を示したキャラクターの吹き出しを設け、資料を読み取る力を高め、学びを深められるような構成・配列の工夫が見られる。
46 帝 国	(1) 社会科の目標を達成するために、巻頭では、地図帳の構成や方位、地図記号、縮尺、さくいんの使い方など、地図帳の基本的な見方・使い方を示している。 また、地理的分野の学習にあわせて、世界は州別に、日本は地方ごとに構成されており、地域の特色が適切に理解できる資料も多数掲載されている。 さらに、巻頭と巻末の資料図には、タイトルの近くに「学習課題」を設け、そのページで扱うテーマを追究する際の着眼点が示されるなどの構成・配列の工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、冒頭にSDGsの視点から国際社会の諸課題を示したり、関連する写真やグラフ等を数多く掲載したりするなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、世界の各州・日本の各地方には「基本資料」のページを設けたり、世界地図に「注目したい記号」を示したりするなどの工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、世界や日本の学習に役立つ「テーマ資料」を多数掲載したり、特設ページで歴史や公民との関連を図ったりするなどの工夫が見られる。
46 帝 国	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、世界の各州には、イラストを配した鳥瞰図を設けたり、学びを深める「地図活用」を設けたりするなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、作業を通して地形図の見方を身に付けたり、日本と世界の位置関係の比較ができるようなページを多数取り入れたりするなどの工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、SDGsの観点に基づいた資料を多数設けたり、自然や人口など複数の資料図を、縮尺を統一して掲載したりするなどの工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
1 東 書	(1) すべての生徒が学習しやすくするために、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、巻末の検索ページは項目ごとにまとめ、資料索引性を高めるなどの工夫が見られる。 また、巻頭に SDG s の特集ページが設けられたり、日本の現状と課題に関する資料が多く掲載されたりしており、学習効果を高める工夫が見られる。 さらに、「二次元コード」を読み取って、白地図や関連情報を閲覧するなど、インターネットで資料の活用図る学習が行えるような工夫が見られる。
10 帝 国	(1) すべての生徒が学習しやすくするために、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、手話による地名の表現を掲載するなどの工夫が見られる。 また、地図帳の大判化（A4判）により、地域全体を見やすくし特色を捉えやすくしたり、修学旅行や校外学習等でそのまま活用できたりするような工夫が見られる。 さらに、「二次元コード」を読み取って、学習を深めるための資料やクイズなどのコンテンツを活用した学習を行えるような工夫が見られる。

4 地域の思いや願いに対する配慮

〔観点4〕 問題解決に向け、主体的に学び、情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるためにどのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
1 東 書	(1) 問題解決に向け、主体的に学ぶことができるようにするために、地理・歴史・公民的分野の学習内容との関連性を高めたり、補完したりする資料を多数掲載し、物事を多角的・多面的にとらえ、課題を解決するための方策の構想ができるようにするなどの工夫が見られる。 情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるために、資料さくいんや基本的な統計資料を巻末に豊富に掲載し、必要な資料を生徒が選択しながら調べることができるなどの工夫が見られる。また、Dマークを付し、国土地理院の「地理院地図」や白地図を活用することができるなどの工夫が見られる。
10 帝 国	(1) 問題解決に向け、主体的に学ぶことができるようにするために、世界地図において、実際の地図と、世界各州のイラストがついた同じ国の鳥瞰図を併用し、二つの地図を比較しながら、物事を具体的、視覚的にとらえることができるようにする工夫が見られる。また、日本地図には、土地利用表現と等高段彩表現を併用し、調べる地方を具体的に調べることのできる工夫が見られる。 情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるために、「地図活用」コーナーや2次元コードを設け、生徒が諸課題について考え、よりよい在り方について検討したり、協働して取り組んだりすることができるような工夫が見られる。

研究報告書

数学

1 教科目標の達成及び教材の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 数学科の目標を達成するために、習熟の差に応じた「章の問題」や巻末の「補充の問題」を通して、繰り返し練習に取り組む機会を設け、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。 また、多くの章で「単元を貫く題材」を用いており、学びが連続し、生徒が主体的に解決していくことができる展開にするなどの、構成・配列の工夫が見られる。
4 大日本	(1) 数学科の目標を達成するために、活動に続く「たしかめ」や適用練習を深化する「プラス・ワン」、巻末の「補充問題」や「総合問題」等で、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。 また、学習への意欲や関心を高め、生徒が主体的に学習に取り組めるよう、章の導入の活動や既習内容との関連を重視した「考えよう」を設定するなどの、構成・配列の工夫が見られる。
11 学 図	(1) 数学科の目標を達成するために、計算技能習熟に向けた「計算力を高めよう」や節末の「確かめよう」、章末の「章のまとめの問題」等で、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。 また、各章の始めには「章のとびら」が設定され、身のまわりや数学の学習の中から、生徒が自ら問題を発見し、考えることができるようにするなどの、構成・配列の工夫が見られる。
17 教 出	(1) 数学科の目標を達成するために、繰り返し学習できるよう各節の「基本の問題」や章末の「章の問題」、巻末の「補充問題」等を設定し、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。 また、章の始めに既習事項を確認する問題や本文の側注に「もどって確認」が設定され、学び直しをしながら効果的に学習を進められるようにするなどの、構成・配列の工夫が見られる。
61 啓林館	(1) 数学科の目標を達成するために、内容を精選した章末問題「学びをたしかめよう」や個に応じて活用する「もっと練習しよう」等を設定し、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。 また、数学を学ぶ意義や有用性を実感できる題材である各節の導入「学習のとびら」を設定し、生徒が主体的に学習に取り組めようにするなどの、構成・配列の工夫が見られる。
104 数 研	(1) 数学科の目標を達成するために「確認問題」「章の問題」「チャレンジ編」や補充問題をデジタルコンテンツに多数準備するなど学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。 また、既習事項が確認できる「ふりかえり」を各章に設定したり、学び直しをするために、学んだ内容を領域別にまとめたページを設けたりするなどの、構成・配列の工夫が見られる。
116 日 文	(1) 数学科の目標を達成するために「基本の問題」や「章の問題」巻末の「補充の問題」など多くの問題に取り組めるように設定するなど、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。 また、既習事項を確認できる「確かめ」や各章の始めに「次の章を学ぶ前に」を設定し、授業における生徒のつまづきを未然に防ぐようにするなどの、構成・配列の工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「虫めがねマーク」の吹き出しで問題発見・解決の過程を振り返って意識することを促すようにするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。 (2) 数学の問題発見・解決の過程を重視したり、学習したことを実生活や新たな課題に生かした「深い学びのページ」を章末に設定したりするなど、「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 各章末「章の問題B」に活用する問題を設定し「事柄や事実」「方法や手順」「理由」を説明する記述式問題に取り組めるようにするなど、「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。
4 大日本	(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、各章の「活動」では数量や図形などの性質を見い出すことができるよう、問い方や考え方に応じたキャラクターを設定するなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。 (2) 節や章の終わりに「学びのふり返し」や「学びにプラス」を設定し、数学のよさや有用性に気づき、今後の学習や生活に生かせるようにするなど、「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 学習内容をもとに判断したり、数学の用語や図などを使って他の人に考えを伝えたりする「判断しよう」「伝えよう」を設定するなど、「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。
11 学 図	(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「Q」では問題解決における話し合いの場面や側注に「見方・考え方」を示し、問題解決に向けて見通しを立てられるようにするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。 (2) 「例」では解法や解答を示すだけでなく、根拠となる考え方や原理・法則が理解できるように重要な考え方を「考え方」として明記するなど、「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 巻末に「さらなる数学へ」を設定し、生徒の実態に応じた学習が進められるようにレポートの作成から発表までを意識したポイントを提示するなど、「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。

発 行 者	概 評
17 教 出	(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「？」で示した生徒の素朴な疑問をもとに、問題解決に当たって友達の考えを聞いたり話し合ったりできるようにするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。 (2) 節末は「基本の問題」で構成し、側注に学習内容および関連する「例」や「問」を示して、必要に応じて生徒が自ら主体的に確認できるようにするなど、「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 「Q」では、作業、観察、実験、調査などの活動を通して結果を予想したり、新たな法則や性質を見い出したりする場面を豊富に設定するなど、「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。
61 啓林館	(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、適所に「？」を配置し、問題を広げたり深めたりする視点を示すことで、自ら問題を見い出す力を養えるようにするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。 (2) 学習内容がはっきりわかるように「例」「例題」のタイトルをつけ、スモールステップの展開にしたり、計算や式の変形を丁寧に示したりするなど、「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 「説明しよう」「話しあおう」では、自分の考えを他者に伝える場面や他者と自分の考えを比較して考えを高めていく場面を設けるなど、「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。
104 数 研	(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、生徒キャラクターの対話や先生キャラクターの助言を適宜提示し、基礎的な内容を学べるようにするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。 (2) 無理なく学習できるように「例」や「問」を細かく設定し、個々で学びを振り返るように丁寧に説明するとともに、基礎の定着を目的とした「確認問題」を節ごとに設定するなど、「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 学習内容を通常の「問」だけではなく、「Q」や「TRY1」などの問題を適宜配置し、生徒の学習動機を与えるようにするなど、「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。
116 日 文	(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「考えよう」「話し合おう」「深めよう」というマークを付けた「問」を設定し、生徒に具体的な学び方を明示するなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。 (2) 学習内容をつかみやすくするために、タイトルのついた「例」をきめ細かなステップで展開し、内容を理解させるのに必要な量の問題を小節、節末、章末、巻末に用意するなど「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 「問」や「例」の横にそれぞれの学習場面で働かせるべき「大切な見方・考え方」を生徒にも分かる具体的な表現で適宜提示するなど、「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、本時の課題である「Q 考えてみよう」をカラー表示することで、より明確にするとともに、生徒にとって分かりやすくするため、ポイントとなる部分に中学生キャラクターの吹き出しを用いて、生徒の気付きや考えを引き出すような工夫が見られる。
4 大日本	(1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、単元名のインデックスを領域別カラーで表示することで、ふり返りや学び直しをしやすくするとともに、生徒にとって分かりやすくするため、写真等を用いた「導入の活動」を設定し、生徒の主体的な学びを促すような工夫が見られる。
11 学 図	(1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、「章のまとめの問題」は基本、応用、活用に分け、応用、活用は生徒の実態に応じて弾力的に扱えるようにするとともに、生徒にとって分かりやすくするため、各領域の前や本文中に「ふりかえり」を設け、既習事項を確認しながら学びを進められるような工夫が見られる。
17 教 出	(1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、巻末に既習内容をまとめた「学びのマップ」を設定し、適宜、学び直しやふり返りができるようにするとともに、生徒にとって分かりやすくするため、「例」と「問」の間に「たしかめ」を設け、「例」の内容を確実に理解できるようにするなどの工夫が見られる。
61 啓林館	(1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、裏表紙の縦開きから始まる「自分から学ぼう編」を設定し、必修の部分と自分の興味に応じて取り組んでよい部分を明確にするとともに、生徒にとって分かりやすくするため、QRコードを掲載し、学習内容に関連した動画や詳しい解説を閲覧できるような工夫が見られる。
104 数 研	(1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、本冊の学びを深めることができる探究ノートを別冊で設定するとともに、生徒にとって分かりやすくするため、「補充」「資料」「イメージ」「考察」の4種類のデジタルコンテンツを教科書のQRコードから閲覧できるような工夫が見られる。
116 日 文	(1) 学習効果や使用上の利便性を図るため、対話的な学びを促す「対話シート」を用いたり、方眼の配置を工夫しグラフ等を教科書に直接書きこみやすくしたりするとともに、生徒にとって分かりやすくするため、「まちがえやすい問題」や「誤答に注意！」を表示し、つまづかないようにするなどの工夫が見られる。

4 地域の思いや願いに対する配慮

〔観点4〕 問題解決に向け、主体的に学び、情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるためにどのような工夫がみられるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 主体的に学び、情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるために、「深い学びのページ」において日常生活や社会の事象に関わる問題発見・解決の過程を重視した活動を設定したり、知識や技能を活用する力がしっかり身につくよう、各章末において記述式問題を含む活用の問題を設定するなどの工夫が見られる。
4 大日本	(1) 主体的に学び、情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるために、「活用・探求」のコーナーにおいて、日常生活の事例を通して、これまでに学習した内容を活用させたり、「社会にリンク」のコーナーにおいて、仕事の中の数学を紹介する読み物を複数設け、数学のよさや考える楽しさが実感できるようにしているなどの工夫が見られる。
11 学 図	(1) 主体的に学び、情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるために、章末の「深めよう」や巻末の「疑問を考えよう」などの課題を通して、章ごとの学習だけでなく、領域横断、教科横断的な学習を設定したり、巻末の「協働学習のページ」において、見方・考え方、表現の方法等について掲載するなどの工夫が見られる。
17 教 出	(1) 主体的に学び、情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるために、「数学の広場」において、生徒が興味関心を抱く課題や数学に関連する知識、歴史的・文化的な話題を数多く掲載したり、学習したことのよさを強調する場面や、数学が生活の中で生かされていることを実感できる課題、学習感想を書かせる場面を設けるなどの工夫が見られる。
61 啓林館	(1) 主体的に学び、情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるために、巻末の「自分から学ぼう編」を設け、家庭などの授業外においても主体的に学習を進め、学び直しができるようになっていたり、各単元の導入のページにおいて、実生活の場面を細かく設定し、生徒が主体的に学べる構成にしているなどの工夫が見られる。
104 数 研	(1) 主体的に学び、情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるために、キャラクターが数学的な見方・考え方をはたらかせながら解決に向かう姿を対話形式で掲載し、紙面上で授業の流れを見てとれるようにしていたり、各例題に関して、生徒が理解しやすいように途中の説明等を丁寧に表記及び図示しているなどの工夫が見られる。
116 日 文	(1) 主体的に学び、情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるために、「数学のたんけん」や巻末の「数学を仕事に生かす」「暮らしと数学」において、生活や社会の中で数学が重要な役割を担っている事例を紹介したり、「説明できるかな？」の設問や「学び合おう」のページにおいて、考えたことをもとに話し合う活動を設定するなどの工夫が見られる。

研究報告書

理科

1 教科目標の達成及び教材の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 理科の目標を達成するために、「探究をレベルアップ」を設定し、問題解決の力を重点的に育成することができるようにするとともに、章ごとに「Before & After」で学習前後の自分の考えを記録することで、変容を知る機会をつくるなど、生徒が見通しをもって学習に取り組み、振り返りができるような構成・配列等の工夫が見られる。
4 大 日 本	(1) 理科の目標を達成するために、単元の導入では「これまでに学習したこと」「これから学習すること」を設定し、学習の系統性や学習の流れを分かりやすく提示するとともに、単元末では「探究活動」で、その単元で学習したことを活用して探究的に課題を解決することを通して、問題解決の力を育成することができるような構成・配列等の工夫が見られる。
11 学 図	(1) 理科の目標を達成するために、単元の導入では「Can-Do List」を設定し、生徒自身がこの章で身に付けなければならない力や内容を意識できるようにするとともに、章末では「何ができるようになったか」を設定し、導入場面の自分と比較させ、どのような力が身に付いたかを生徒自身で振り返ることができるような構成・配列等の工夫が見られる。
17 教 出	(1) 理科の目標を達成するために、単元の導入では「学んでいくこと」で、学習の流れを意識できるようにし、問題解決の場面では「思い出そう」で、学習の系統を意識しながら、既習内容を生かした学習ができるようにするとともに、単元末では「疑問から探究してみよう」で、問題解決の力を重点的に育成できるような構成・配列等の工夫が見られる。
61 啓 林 館	(1) 理科の目標を達成するために、単元の導入では「学ぶ前にトライ！」で身のまわりの疑問について考えさせることで、生徒に単元の見通しをもたせるとともに、課題の把握から解決までの探究の流れの各段階が、1つの流れとして図や写真とともに視覚的に分かるように示されており、生徒が探究を意識して取り組めるような構成・配列等の工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 生徒が理科の見方・考え方を働かせながら問題を科学的に解決できるように、各節の導入の「レッツ スタート！」において生徒が自ら気づきを得たり、対話を促したりするように示している。また、「科学のミカタ」を設定し、生徒に見方・考え方を具体的に示すなど、学びを深める工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、節の最後に、日常生活や社会と結びつけたり、新たな問題を見出したりできるように「学びをいかして考えよう」を設定するとともに、章の最後には「学んだことをつなげよう」で、学んだ内容をつなげて解決する課題を設定するなどの工夫が見られる。 (3) 未知への状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「課題に対する結論を表現しよう」では、生徒が自分の言葉で結論をまとめる場面を設定するとともに、それに対応した結論の例を章末に示し、確認できるなどの工夫が見られる。
4 大日本	(1) 生徒が理科の見方・考え方を働かせながら問題を科学的に解決できるように、探究の各過程で、キャラクターが必要となる考え方を示す工夫が見られる。また、観察・実験の見出しに着目点として理科の見方・考え方を示し、生徒に解決の見通しをもたせる工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「くらしの中の理科」や「つながる」で、理科の学習内容が日常生活で活用されている事例や他教科との関連を示すとともに、「Science Press」「Professional」などを多数掲載し、学びを広げるなどの工夫が見られる。 (3) 未知への状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、探究の各過程をマークで示し、各学年で重視する過程は強調するとともに、考察の段階では、考える視点を提示した「結果から考えよう」を設けるなど、考察する力を高める工夫が見られる。

11 学 図	(1) 生徒が理科の見方・考え方を働かせながら問題を科学的に解決できるように、単元の導入で「課題」と解決につながる「見方・考え方」を示している。また、探究活動の各項目が、マークを用いて示され、特に中心となる項目は強調するなど、主体的・対話的で深い学びを実現するための工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、単元を通して学んだことを「やってみよう」で生徒が自ら探究できるようにするとともに、単元末に「学びを日常にいかしたら」を設定し、学習内容について、日常を題材にした問題を通して確認するなどの工夫が見られる。 (3) 未知への状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、探究の過程を重視した学習過程について複数のページを使って説明するとともに、観察・実験の明確な結果例や考察の視点を例示するなど、生徒自身が結果を分析・解釈するための工夫が見られる。
17 教 出	(1) 生徒が理科の見方・考え方を働かせながら問題を科学的に解決できるように、事物や現象に対して生じた疑問をもとに探究する課題を設定する場面を位置付けている。また、探究の場面毎に問題解決の支援として生徒キャラクターにより、見方・考え方を示す工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「ハローサイエンス」で学習内容が日常生活や社会で活用されている具体例を示したり、「活用しよう」で学習したことをもとに活用して考える課題を提示し、説明させたりする場面を設けるなどの工夫が見られる。 (3) 未知への状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、観察・実験の前後で、「考えよう」「話し合おう」「活用しよう」を設定するとともに、キャラクターの意見を参考にしながら自分の考えをまとめたり、話し合ったりする場面を設定するなどの工夫が見られる。

61 啓林館	(1) 生徒が理科の見方・考え方を働かせながら問題を科学的に解決できるように、図表や写真、マークなどで仮説や計画などの学習活動における視点を示している。また、生徒が根拠をもって対話をする場面などで、生徒キャラクターの吹き出しに見方・考え方のヒントを例示するなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「みんなで探Qクラブ」や「みんなで解決」で、習得した知識・技能を活用して身近な疑問を探究する場面を設けたり、「力だめし」で、日常生活の場面における問題等を考えさせたりするなどの工夫が見られる。 (3) 未知への状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各単元に「探Q実験・実習」を設けるとともに、対応する巻末冊子の「探Qシート」を活用することで、主体的・対話的に観察・実験の計画を立てたり、結果を整理し、分析・解釈したりできるようにするなどの工夫が見られる。
--------	---

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、大きさをA4スリム判にし、観察・実験の手順を大きく縦にならべることで、手順や操作上の注意事項を明確で分かりやすくするなど、生徒が安全に観察・実験を実施できる工夫が見られる。
4 大 日 本	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、単元の導入で、興味・関心を高められるような大きな写真を提示したり、学習問題につながる疑問や気づきなどがもてるように、生徒キャラクターが考えるヒントを提示したりするなどの工夫が見られる。
11 学 図	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、どの章においても観察・実験を探究活動として扱い、生徒の自発的な疑問からスタートする学習活動を繰り返し行うことで、科学的に探究する力を身に付けさせるなどの工夫が見られる。
17 教 出	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、「課題」の枠内を赤色で塗りつぶして強調することにより、学習の目的を明確にし、対応する「結論」も同じ枠で囲むことにより、生徒が何を学習したのか確認しやすくするなどの工夫が見られる。
61 啓 林 館	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、単元扉や章扉に大きな写真や図を配置したり、動画につながるQRコードを掲載したりして、生徒の学習内容への興味・関心や理解を高め、新たな気づきや疑問などをもちやすくするなどの工夫が見られる。

4 地域の思いや願いに対する配慮

〔観点4〕 問題解決に向け、必要な情報を読み取り、考えを深め、判断し、積極的に表現する資質・能力を高めるためにどのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 豊かな学びになるために、デジタルコンテンツが「Dマーク」として複数準備されており、動画やコラムの視聴や関連する他教科の学習内容等の確認ができるようになっている。 (2) キャリア教育への対応として、単元末コラムや本文内コラムにおいて、様々な職業に就いている人の仕事の内容を学習と関連付けて紹介し、科学の有用性について触れている。 (3) 基礎的・基本的な知識・技能を習得するために、「例題、考え方、練習、確認」を設けている。また、「学んだことをチェックしよう」や単元末には「学習内容の整理」や「確かめと応用」を設け、学習内容の定着・習熟が図れるように工夫されている。
4 大日本	(1) 豊かな学びになるために、デジタルコンテンツが複数準備されており、ウェブコンテンツを活用したり、コンピュータで調べたりする方法や活動の確認ができるようになっている。 (2) キャリア教育への対応として、生徒にとって将来を考えるヒントになるように、理科に関連する職業や仕事などの資料を学習と関連付けて紹介し、科学の有用性について触れている。 (3) 基礎的・基本的な知識・技能を習得するために、「例題・解答例」や「演習」を設けている。また、章末問題や単元末には「まとめ」、「単元末問題」のほかに「読解力問題」を設け、学習内容の定着・習熟が図れるように工夫されている。

11 学 図	(1) 豊かな学びになるために、デジタルコンテンツが複数準備されており、コラムや動画の視聴のほか、章のまとめの確認や基礎問題の確認ができるようになっている。 (2) キャリア教育への対応として、日常の生活がさまざまな職業につく人々の協力によって成り立っていることを学習と関連付けて紹介し、科学の有用性について触れている。 (3) 基礎的・基本的な知識・技能を習得するために、「この時間の課題」に連動した「この時間のまとめ」を設けている。また、QRコード先での章のまとめや基礎問題のほか「学びを日常にいかしたら」を設け、学習内容の定着・習熟が図れるように工夫されている。
17 教 出	(1) 豊かな学びになるために、デジタルコンテンツが「まなびリンク」として複数準備されており、ウェブサイトでの学習に役立つ情報の確認ができるようになっている。 (2) キャリア教育への対応として、文化や伝統を意識し、科学が日常やさまざまな事物・現象と深く関わっていることを本文展開と関連した話題を紹介し、科学の有用性について触れている。 (3) 基礎的・基本的な知識・技能を習得するために、「計算しよう」や「演習しよう」を設けている。また、節末や章末には「要点をチェック」を、単元末には「要点と重要用語の整理」、「基本問題」等を設け、学習内容の定着・習熟が図れるように工夫されている。

61 啓林館	(1) 豊かな学びになるために、デジタルコンテンツが多数準備されており、動画のほか、章の導入や単元末には、既習事項や学習内容の確認ができるようになっている。 (2) キャリア教育への対応として、「部活ラボ」「お仕事ラボ」「お料理ラボ」「深めるラボ」等により、生活と科学との結びつきを意識した話題を紹介し、科学の有用性について触れている。 (3) 基礎的・基本的な知識・技能を習得するために、「例題、考え方、練習」を設けている。また、章末には「基本のチェック」を、単元末には「学習のまとめ」、「力だめし」、「学年末総合問題」等を設け、学習内容の定着・習熟が図れるように工夫されている。
--------	--

研究報告書

音楽（一般）

1 教科目標の達成及び教材の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
17 教 出	(1) 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、全ての学年に、領域・分野ごとに構成された「学びのユニット」が示され学習のねらいに到達する工夫が見られる。 また、全ての教材に〔共通事項〕にある「音楽を形づくっている要素」を明記した学びの手がかりとなるヒントや、学びを深めるための曲や活動が示されており、系統的で、主体的な学びが展開できるような構成・配列の工夫が見られる。
27 教 芸	(1) 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、全ての学年に、学習内容や教材を示した「学びの地図」が示され、学習のねらいに到達する工夫が見られる。 また、全ての教材に〔共通事項〕にある「音楽を形づくっている要素」と学習指導要領の資質・能力の三つの柱との関連性が示されており、系統的で、主体的な学びが展開できるような構成・配列の工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
17 教 出	(1) 主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、全学年に「まなびリンク」「比べてみよう」「深めてみよう」が掲載され、学習の進め方について分かりやすく示されている。また、「話し合おう」では、自分の考えや感じ取った曲想等をまとめ、意見が交流できるようになっており、対話を通して学びが深められるように工夫されている。 (2) 生きて働く「知識・技能」の習得のために、適宜、一人の教師のキャラクターが掲載され、吹き出しに具体的な学習の進め方やヒントが示されており、学びを確認できるようになっている。 また、我が国の伝統的音楽については、口唱歌の動画や演奏動画がおさめられた「まなびリンク」を視聴することで、実感を伴う学びができるような工夫が見られる。 (3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、学習内容の後半に記録用のワークシートが設けられており、学んだことを生かした表現の工夫を考えたり、比較鑑賞した気付きや考えをまとめたりするなどの工夫が見られる。
27 教 芸	(1) 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、全学年に「深めよう！音楽」「My Melody♪」「Let's Create!」が掲載され、学習の手順が分かりやすく示されている。また、掲載されているワークシートでは、自分の考えや感じ取った曲想等をまとめ、意見が交流できるようになっており、対話を通して学びが深められるように工夫されている。 (2) 生きて働く「知識・技能」の習得のために、適宜、二人の教師のキャラクターが掲載され、吹き出しに具体的な学習の進め方やヒントが示されており、学びを確認できるようになっている。 また、我が国の伝統音楽については、「演奏者からのアドバイス」のコーナーでの本人による解説やQRコード内の演奏動画によって、実感を伴う学びができるような工夫が見られる。 (3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、生徒のキャラクターの吹き出しに、表現の工夫や協働的な学びへの視点等が示されている。また、学習内容に応じた書き込みページを設け、学びを振り返ることができるような工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
17 教 出	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全学年の目次の右下に、「まなびリンク」としてQRコードが掲載されており、範唱の音源や雅楽師などの範奏の視聴等ができるように工夫されている。
27 教 芸	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全学年の必要なページにQRコードが掲載されており、楽器の演奏の仕方に関する動画や学習に関連する内容のウェブサイトの紹介が参照できるように工夫されている。

4 地域の思いや願いに対する配慮

〔観点4〕 問題解決に向け、主体的に学び、情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるためにどのような工夫がみられるか。

発 行 者	概 評
17 教 出	(1) 主体的に学ぶことと、表現を工夫したり聴き取ったりしたことを話し合うなど協働的に学ぶことを重視しており、具体的な学習活動例として、ACTIVE「進んで学び合おう」や「比べてみよう」のページを配置する工夫が見られる。 また、これまでの学びを生かして、様々な音楽について特徴を理解することができるよう書き込み欄を設けたり、「話し合おう」を設定したりするなど、思考力・判断力・表現力を育む工夫が見られる。
27 教 芸	(1) 主体的・対話的な学習を引き出し、深い学びを促すとともに、「深めよう！音楽」では、学習の流れを見通しながらスムーズに学習ができるように、学習の手順を番号で示し、各段階で考えることを吹き出し等で示すなど、流れをわかりやすくする工夫は見られる。 また、キャラクターがそれぞれ意見を出し合いながら交換する様子を吹き出しで表したり、調べたことを手掛かりに書き込む欄を設けたりするなど、主体的・対話的で深い学びへのアプローチとしての工夫が見られる。

研究報告書

音楽（器楽）

1 教科目標の達成及び教材の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
17 教 出	(1) 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、各楽器についての基礎的な知識や奏法で演奏する曲をまとめた「演奏の仕方を身に付けよう」と、身に付けた奏法の活用をねらった「合わせて演奏しよう」が設けられるなどの構成・配列の工夫が見られる。 また、我が国の伝統音楽については、口唱歌（唱歌）を取り入れたり、「唱歌について」のページを設けたりするなど、実感を伴った学びになるような工夫が見られる。
27 教 芸	(1) 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、楽器の基礎的な知識や奏法で演奏する曲をまとめた「アンサンブルセミナー」と、身に付けた奏法の活用をねらった「アンサンブル」や「楽器で Melody」が設けられるなどの構成・配列の工夫が見られる。 また、我が国の伝統音楽については、口唱歌（唱歌）を取り入れたり、「演奏者からのメッセージ」を掲載したりするなど、実感を伴った学びになるような工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
17 教 出	(1) 主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、教材ごとに「学びのねらい」をスタート、「まとめの曲」をゴールに設定し、見開きで学習を見通せる構成になっており、主体的に学び合う活動が展開できるように工夫されている。 (2) 生きて働く「知識・技能」の習得のために、身に付ける技能の模範となる演奏を試聴できる「まなびリンク」や、写真、イラスト、解説を掲載するなどの工夫が見られる。 また、「Let's play!」「Let's Try!」の中から、学校や生徒の実態に応じて、曲を段階的に取り扱えるように配置されており、習得した知識・技能を活用することができるように工夫されている。 (3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、吹く楽器と弾く楽器の学習の最後に「何が同じで、何が違う？」のページが設けてあり、共通性と固有性を考え、特徴を理解することができるように工夫されている。 また、「話し合おう」では、考えたことや気付いたこと等をまとめ、協働的な活動が展開できるような工夫がされている。
27 教 芸	(1) 主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、「アンサンブルセミナー」では「学習目標」「活動文」「深めよう！音楽」によって、見開きで学習を見通せる構成になっており、主体的に学び合う活動が展開できるように工夫されている。 (2) 生きて働く「知識・技能」の習得のために、写真やイラスト、解説を掲載したり、様々な演奏や動画等を視聴できるQRコードを設けたりするなどの工夫が見られる。 また、「アンサンブル」「楽器で Melody」の中から、学校や生徒の実態に応じて、曲を段階的に取り扱えるように配置されており、習得した知識・技能を活用することができるように工夫されている。 (3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各楽器の学習の初めに、鑑賞曲を提示し、聴くことによって特徴を理解させるように工夫されている。 また、「深めよう！音楽」では生徒のキャラクターの吹き出しに、対話の例や考える視点等が示され、考えや気付いたこと等をまとめて協働的な活動が展開できるように工夫されている。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
17 教 出	(1)学習効果や使用上の利便性を高めるために、「各部の名称」「姿勢とかまえ方」などのコーナーがあり、基本的な知識や奏法について、鮮やかでダイナミックな写真やイラストを多く使うなど、主体的に知識・技能を身に付けることができるように工夫されている。
27 教 芸	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、「各部の名称」「姿勢と構え方」などのコーナーがあり、基本的な知識や奏法について、リコーダーの運指表のカラー掲載や替え指の紹介をするなど、主体的に知識・技能を身に付けることができるように工夫されている。

4 地域の思いや願いに対する配慮

〔観点4〕 4 問題解決に向け、主体的に学び、情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるためにどのような工夫がみられるか。

発 行 者	概 評
17 教 出	(1) 主体的に学び、情報を的確に読み取るために、楽器名・楽器解説、演奏者からのメッセージ、学習事項、活動事項など、必要な情報を写真や図版をより多く掲載するなどの工夫が見られる。 また、学びを支えるWEBリンクを設置し、音楽表現を視聴・聴取したり、学習で使用する資料を準備したりするなどの工夫が見られる。
27 教 芸	(1) 主体的に学び、情報を的確に読み取るために、楽器の特徴などの知識や表現活動をするための技法を確実に得られるように写真や図版をより多く用いて説明するなどの工夫が見られる。 また、キャラクターやコラムを採用し、考える視点を例示するとともに、ギターではダイヤグラムを例示するなど、主体的・対話的な学びにつなげる工夫が見られる。

研究報告書

美術

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
9 開隆堂	(1) 美術科の目標を達成するために、図画工作科と美術科の関連を説明した「学びの地図」から学習をスタートし、「生命感あふれる表現」の鑑賞をはじめ、社会との関わり方やこれからの生き方や未来を考えさせることができるような題材を配列するなどの工夫が見られる。 また、題材ページは、見開き2ページの題材を中心に、大型図版を4ページや6ページの大きな見開きで見られる題材を設けるなど、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める工夫が見られる。
38 光村	(1) 美術科の目標を達成するために、3年間の美術科で何をどのように学ぶか見通せる学習からスタートし、「環境とともに生きる彫刻」の鑑賞をはじめ、美術科の学びを人生や社会に生かそうと考えさせることができるような題材を配列するなどの工夫が見られる。 また、題材ページは、目標を確認する、鑑賞して表現につなげる、構想を練って制作する、鑑賞をして学びを深めるといった学習の流れが分かる紙面を構成するなど、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める工夫が見られる。
116 日文	(1) 美術科の目標を達成するために、中学3年間の美術科の学びを見通すことのできる「成長地図」の学習からスタートし、「人が生きる社会と未来」の表現・鑑賞をはじめ、自分と向き合いながら、将来の生き方を意識できるような題材を配列するなどの工夫が見られる。 また、題材ページは、「サブタイトル」を示したり、表現と鑑賞が相互に関連していることを表すマークをインデックスに配置したりして、活動の見通しをもたせるなど、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
9 開隆堂	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、各領域の扉のページに、学ぶ内容や学習の魅力を示し、生徒に学習の意義と方法を理解させるような工夫が見られる。 また、「暮らしに生きる美術」を設け、美術の学習を通して培った力を生かし、これからの生き方を考えることができるような工夫も見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、必要なページに「美術の用語」欄を設け、造形的な特徴に着目することができるような工夫が見られる。 また、各巻末に「学びの資料」を設け、制作の手順やポイント、用具の使い方を示すなど、制作に取り組みやすくするような工夫も見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各題材に「学習のポイント」を示し、生徒がイメージを豊かにしながら学習に取り組むことができるように工夫している。 また、部分拡大等で作品を掲載し、作品に豊かに関わることができるような工夫も見られる。
38 光村	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、題材ごとに表現や鑑賞の際のポイントが問いの形で示され、生徒に学習の方法を理解させるような工夫が見られる。 また、「うつくしい」、「美術の力」を設け、美術の学習を通して培った力で、これからの生き方を考えることができるような工夫も見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、各題材の説明に制作や鑑賞の視点を示し、造形的な特徴に着目することができるように工夫している。 また、各巻末に「学習を支える資料」を設け、材料や用具の使い方、色彩の特徴を示すなど、制作に取り組みやすくするような工夫も見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、表現中心の題材に、生徒が実際に試行錯誤しながら制作する過程を示し、イメージを豊かにしながら学習に取り組むことができるように工夫している。 また、全ての題材において鑑賞活動を設定し、作品に豊かに関わることができるような工夫も見られる。
116 日文	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、各分野のはじめに、導入ページを設定し、生徒に内容把握や学習の方法の理解を促すような工夫が見られる。 また、美術での学びを生かしている人々の言葉を掲載し、多様な考え方に触れ、これからの生き方を考えることができるような工夫も見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、題材の冒頭に活動や目的を示し、造形的な特徴に着目することができるように工夫している。 また、各巻末に「学習を支える資料」を設け、材料や用具の取り扱いについて示すなど、制作に取り組みやすくするような工夫も見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、美術1の巻末資料に「発想や構想の手立て」を示し、全題材において、イメージを豊かにしながら学習に取り組むことができるように工夫している。 また、題材ページに鑑賞活動を促すような情景写真を示し、作品に豊かに関わることができるような工夫も見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
9 開隆堂	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、題材に沿った「学習のポイント」で話し合う場を設け、生徒が学習に取り組みやすくする工夫が見られる。 また、誰にとっても読みやすい文字表記にするなど、紙面のユニバーサルデザインを意識したり、各題材にQRコードを掲載し、教科書に掲載した作品以外の参考作品例などを見たりすることができるようにするなど、学習効果を高めるような工夫が見られる。
38 光村	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、題材の鑑賞作品に対して鑑賞の視点を設定し、対話を通して学習を進めるなど、生徒が学習に取り組みやすくする工夫が見られる。 また、誰にとっても読みやすいようなフォントを使用し、紙面のユニバーサルデザインを意識したり、題材の随所にQRコードを掲載し、各単元で使用する用具の使い方や制作の流れが確認できるようにしたりするなど、学習効果を高めるような工夫が見られる。
116 日文	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、各題材に「造形的な視点」として対話が生まれるような問いを設け、生徒が学習に取り組みやすくする工夫が見られる。 また、誰にとっても読みやすいように、紙面のカラーユニバーサルデザインを意識したり、題材の随所にQRコードを掲載し、見たい角度や距離感から立体作品を鑑賞することができるようにしたりするなど、学習効果を高めるような工夫が見られる。

4 地域の思いや願いに対する配慮

〔観点4〕 問題解決に向け、主体的に学び、情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるためにどのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
9 開隆堂	(1) 問題解決に向けて主体的に学ぶために、「木でつくる遊びの形」のように各個人の能力を伸ばすことができるよう生徒の興味・関心を高め意欲的に学習に取り組めるような題材の工夫が見られる。 (2) 情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるために、「共に学ぶ美術」のように協働して活動する題材を取り上げ、生徒同士のコミュニケーションを深めるような工夫が見られる。
38 光村	(1) 問題解決に向けて主体的に学ぶために、学習を支える資料「発想を広げる」が設定されており、マッピングや表を活用して制作に取り組んだり、鑑賞したりする際の方法を示し、積極的に活動に取り組めるような工夫が見られる。 (2) 情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるために、他者と意見交換しながら制作する様子や作品の意図を伝える「作者の言葉」を掲載し、生徒のコミュニケーション能力の育成が図られるような工夫が見られる。
116 日文	(1) 問題解決に向けて主体的に学ぶために、題材は2ページの見開き構成となっており、インデックスや題材名、学びの目標等が示され、生徒自身が、授業展開をイメージしやすくなるような工夫が見られる。 (2) 情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるために、「作者の言葉」やアイデアスケッチを紹介し、形や色彩・言葉で思いを伝え合うことができるような工夫が見られる。

研究報告書

技術・家庭

(技術的分野)

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 技術科の目標を達成するために、内容ごとに「生活や社会を支える技術」「技術による問題の解決」「社会の発展と技術」の3つの要素に沿って、「導入→基本ページ→学習のまとめ」という学習の流れの中で、基礎・基本から応用・発展へと段階を踏んで記述されるなど、構成・配列の工夫が見られる。
6 教 図	(1) 技術科の目標を達成するために、内容ごとに、簡単な製作等を通して技能を習得する「つくって学ぼう」、計画を含めた設計を行う「じっくり学ぼう」、技術の評価を行う「学びを深め生かそう」という一連の流れの中で系統立てて学習を進めることができるようにするなど、構成・配列の工夫が見られる。
9 開隆堂	(1) 技術科の目標を達成するために、内容ごとに、生活や社会の中にある技術に気付かせながら知識・技能を習得させ、それらを生かしながら「課題設定→設計・製作等→評価」という系統立てた一連の流れで問題解決を図り、振り返りながら定着させるなど、構成・配列の工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるためにどんな工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、一連の学習過程の中に、主体的に調べたり、周りと協働して比較・検討したりするための発問等を設けた「活動」コーナーを多く取り上げるなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、科学的な思考に基づいた技術の原理・法則や基礎的な仕組みについての内容を裏付ける図版や、取り組む課題に応じて必要な技能を適切に選択できる写真等を掲載するなどの工夫が見られる。 (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、持続可能な社会の構築に向け、技術の評価、適切な選択、管理・運用、新たな発想に基づいた改良を目的としたワークシートを掲載するなどの工夫が見られる。
6 教 図	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、技術について調べさせ、考えさせる活動を取り入れ、まとめをグループで話し合わせるとともに、自らを振り返らせる「やってみよう」コーナーを設けるなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、実習題材において、製作等の手順に沿った写真等を示し、基礎・基本的な技能を学ばせ、技術の科学的な原理・法則を理解させ、振り返らせるためのまとめのページを設けるなどの工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各内容の問題解決の場面で設計・計画の流れを「問題発見→考える→具体化→まとめる」の4ステップにまとめるなどの工夫が見られる。
9 開隆堂	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、生徒が積極的に取り組めるような「導入課題」や活動を通して、他者との関わり合いをもてるようにするための「実験」「課題」を設定するなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、身近なものと結びついた問いかけや解説により、科学的な原理や仕組みなどの理解につなげるとともに、それらを生かした実践的な技能について説明するページを設けるなどの工夫が見られる。 (4) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、一連の学習を見通すことができるように「問題解決の流れ」を示し、学習した内容を生かせるように、関連した項目をページ数とともに示すなどの工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという観点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 学習効果や使用上の利便性及び生徒の興味関心を高めるために、問題解決に必要な技能をまとめた「TECH Lab」コーナーで大きく鮮明な写真や図版を用いたり、他の学習とのつながりを重視するために、「リンク」・「他教科」・「小学校」などのマークを用いたりするなどの工夫が見られる。
6 教 図	(1) 学習効果や使用上の利便性及び生徒の興味関心を高めるために、製作等の手順に沿って分かりやすく作業を進めることができるように、各工程に大きな写真や図版を用いたり、他の学習とのつながりを重視するために、各内容の冒頭に「リンクマーク」と教科名を表示したりするなどの工夫が見られる。
9 開隆堂	(1) 学習効果や使用上の利便性及び生徒の興味関心を高めるために、理解しやすいよう実際に作業をしているような大きな写真や図版を用いたり、他の学習とのつながりを重視し、適切な場面で連携するために、「他教科」・「小学校」などのマークを用いたりするなどの工夫が見られる。

4 地域の思いや願いに対する配慮

〔観点4〕 問題解決に向け、主体的に学び、情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるためにどのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 問題解決に向け、主体的に学ぶために、身近な技術や製品などの工夫について興味を持って読み取ることができる「技術の工夫」を脚注に掲載するなどの工夫が見られる。 (2) 情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりするために、問題解決に向け、統一された流れを示し、見通しを持って取り組めるような「問題解決例」を、各内容で豊富に取り上げるなどの工夫が見られる。
6 教 図	(1) 問題解決に向け、主体的に学ぶために、2章の「じっくり学ぼう」では、1章の実習体験を活かし、自ら考える「問題を発見する」ステップを設けるなどの工夫が見られる。 (2) 情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりするために、初めにつくった設計・計画の流れを基に、自分で構想を立て実現するために、各編の「切り取り式ワークシート」を巻末に設けるなどの工夫が見られる。
9 開隆堂	(1) 問題解決に向け、主体的に学ぶために、4人のキャラクターによる問いかけ（吹き出し）が、「実習例」だけでなく多くのページで使われるなどの工夫が見られる。 (2) 情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりするために、問題を発見し、自ら設定した課題を解決するような学習を重視し、「生きる力」が身につくような「実習例」が、豊富に掲載されるなどの工夫が見られる。

研究報告書

技術・家庭 (家庭的分野)

1 教科目標の達成及び教材の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 家庭科の目標を達成するために、「自ら生活をつくる」「生活者としての意思決定する」「ともに生きる」の3つの内容で構成し、系統性を意識しながら、学習のめあてに到達させるような構成の工夫が見られる。 また、巻頭に「家庭分野のガイダンス」を設け、見通しをもった学習が行えるように工夫するとともに、各単元に「導入」「基本ページ」「学習のまとめ」で構成するなど、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し想像する力を育むことのできる構成・配列の工夫が見られる。
6 教 図	(1) 家庭学習の目標を達成するために、「家族と生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」3つの内容で構成し、基礎・基本から応用・発展のながれを意識しながら、学習のめあてに到達させるような構成の工夫が見られる。 また、章の初めに、これまでの生活を振り返るページを設け、自立の確認が行えるように工夫するとともに、各単元に「導入」「やってみよう」「学びを生かそう」「章末のまとめ」で構成するなど、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し想像する力を育むことのできる構成・配列の工夫が見られる。
9 開隆堂	(1) 家庭学習の目標を達成するために、「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」「生活の課題と実践」の4つの内容で構成し、興味・関心を大切にしながら学習のめあてに到達させるような構成の工夫が見られる。 また、章の初めに、「わたしの興味・関心」というページを設け、生活の中から問題を見出せるよう工夫するとともに、各単元に「本文」「ふり返り」「生活にいかそう」「学習のまとめ」で構成するなど、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し想像する力を育むことのできる構成・配列の工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、「活動」例を充実させ、主体的に調べたり、友達と協働して比較・検討したりするなど、深い学びにつながる工夫が見られる。 また、物事を考えたり、意見を整理したりする際に活用できる多様な思考ルーツを示すなど、対話を助けて、協働を促すことができるような工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、生活の自立に必要な基礎的な技能をまとめた「いつも確かめよう」のページを設けたり、習得した知識を家庭や地域の様々な場面に生かせるような「生活に生かそう」を設けたりするなど、生活を営む力を育むことができるような工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、生徒自身が思考できるような「考えてみよう」を設けたり、豊富な「実習例」を数多く示したりするなどの工夫が見られる。 また、見方・考え方を働かせることのできる場面にキャラクターの「ミカタン」を登場させ、関連するせりふで生徒の思考や意識を高めるような工夫が見られる。
6 教 図	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、絵や資料をもとに思考を深めることができる「考えてみよう」があり、対話的で実践的な学習ができるような工夫が見られる。 また、グループでの話合いやロールプレイで対話することができる「話し合ってみよう」が設定してあり、実践的・体験的な活動を通して学習することができるような工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、視覚的な資料や原寸大の写真を豊富に掲載したり、関連するコンテンツを参照して基礎的・基本的な知識が身に付くように、QRコードを掲載したりするなど、生活を営む力を育むことができるような工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、巻頭に問題解決的な学習が展開できるよう、「課題解決学習の流れ」を示したり、巻末に「生活の課題と実践」に課題設定のヒントを掲載したりするなどの工夫が見られる。 また、題材等のまとめに「学びを生かそう」を設け、課題解決学習を繰り返し行うことで、習得した知識や技能を活用して、よりよい生活を創造する力を育成できるような工夫が見られる。

発 行 者	概 評
9 開 隆 堂	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、各章の学習過程を「学習への関心を高める」「学習課題に取り組む」「生活に生かす」の内容で統一し、主体的な学びができる工夫が見られる。 また、様々な場面において、写真や資料をもとに、話し合いが展開できるような「話し合ってみよう」を設け、実践的・体験的な活動を通して学習することができるような工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、子どもの関心や実生活を学びにつなげることを意図して、視覚的な理解につながるように大きな写真や図解で解説したり、小単元のまとめに「生活に生かそう」を設け、習得した知識を家庭や地域の様々な場面に生かしたりできるような工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、単元を通して考えることにつながるように小単元の初めの発問コーナーや「生活の課題と実践の進め方」「まとめ方」のページがあるなどの工夫が見られる。 また、小題材の中で「やってみよう」「発表しよう」のコーナーが設定してあり、個々の学びを生かして、表現につなげることができるような工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、実物大写真や図表を豊富に掲載しているほか、各単元や題材内にあるデジタルコンテンツを視聴して、科学的根拠や実感を伴った知識が身に付くよう工夫されている。 また、生徒にとっての分かりやすさについては、「環境」「防災」「消費者」「情報モラル」等のマークを設定し、今日的課題について意識して学習できるような工夫が見られる。
6 教 図	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、図解やイラストを充実させ、生活経験の不足を補えるように配慮されているほか、QRコードが小題材内に掲載してあり、動画等を視聴して学習を進めることができるよう工夫されている。 また、生徒にとっての分かりやすさについては、「環境」「防災」「消費者」等のマークを設定し、今日的課題について意識して学習できるような工夫が見られる。
9 開 隆 堂	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、各章の扉となる「わたしの興味・関心」では、見開きを使って実物大写真を掲載し、視覚からも学習の動機付けが図られるような工夫が見られるほか、QRコード等を活用し、学習を進められるよう工夫されている。 また、生徒にとっての分かりやすさについては、「豆知識」「他分野他教科」等のマークを設定し、様々な課題について意識して学習できるような工夫が見られる。

4 地域の思いや願いに対する配慮

〔観点4〕 問題解決に向け、主体的に学び、情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるためにどのような工夫がみられるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 問題解決に向け、主体的に学ぶために、教科書のほぼ全ページの最下部に「せいかつメモ」を設け、興味・関心に応じて知識の幅を広げられるような工夫が見られる。 (2) 情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりするために、巻頭にある「家庭分野のガイダンス」において「問題を解決する道筋」を示し、生活に始まり、生活に返す学習の流れを明確にした。見開きでわかりやすく理解できるような工夫が見られる。
6 教 図	(1) 問題解決に向け、主体的に学ぶために、課題解決学習の流れの下に、「私の課題例」を示し、生徒が自分の課題を設定できるような工夫が見られる。 (2) 情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりするために、問題解決に向け、教科書全体を通して、課題解決学習の流れを統一し、学習を繰り返すことで課題を解決する力が身につくような工夫が見られる。
9 開隆堂	(1) 問題解決に向け、主体的に学ぶために、「小学校での学び」を、適宜設定し、過去の学びを振り返りながら、小学校との系統性を感じさせるなどの工夫が見られる。 (2) 情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりするために、「主体的」「対話的」「深い学び」の学習過程を通して多様な課題を設定し、教科書に沿って学習を展開することで、アクティブ・ラーニングを実現できるような工夫が見られる。

研究報告書

保体

1 教科目標の達成及び教材の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 保健体育科の目標を達成するために、学年ごとに「保健編」の2つの章と「体育編」の1つの章でまとめてあり、学びと関連のある「章末資料」や「読み物資料」を設けるなど、生徒が主体的に学びを進めることができるような構成の工夫が見られる。 また、小单元ごとに学習の進め方や課題が明示され、「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」という流れで、生徒が見通しをもって学習することができるような配列の工夫がなされている。
4 大 日 本	(1) 保健体育科の目標を達成するために、学年ごとに「体育編」の1つの章と「保健編」の2つの章でまとめてあり、各章ごとに学びを充実させる「章末資料」を設けるなど、生徒が主体的に学びを進めることができるような構成の工夫が見られる。 また、小单元ごとに学習の進め方や学習のねらいが明示され、「つかもう」「やってみよう・話し合ってみよう・調べてみよう」「活用して深めよう」という内容で、生徒が見通しをもって学習することができるような配列の工夫がなされている。
50 大 修 館	(1) 保健体育科の目標を達成するために、学年ごとに「体育理論」の1つの章と「保健」の2つの章でまとめてあり、学びと関わりのある「特集資料」を章ごとに設けるなど、生徒が主体的に学びを進めることができるような構成の工夫が見られる。 また、小单元ごとに学習の進め方や課題が明示され、「課題をつかむ」「身につける・考える」「学習のまとめ」という内容で、生徒が見通しをもって学習することができるような配列の工夫がなされている。
224 学 研	(1) 保健体育科の目標を達成するために、学年ごとに「体育編」の1つの章と「保健編」の2つの章でまとめてあり、学びと関わりのある「探究しようよ」を章ごとに設けるなど、生徒が主体的に学びを進めることができるような構成の工夫が見られる。 また、小单元ごとに学習の進め方や課題が明示され、「学習の目標」「課題をつかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」という内容で、生徒が見通しをもって学習することができるような配列の工夫がなされている。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、単元冒頭にある「見つける」では、日常経験や既習事項を基に考えたり、話し合ったりするなど、学習課題を自分のものとし、課題の解決に取り組むことができる工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「課題の解決」では、問題解決的な学習を展開できるよう発問を設定し、情報の収集や資料、独自のコンテンツを基に考えたり、話し合ったりする活動により理解を深める工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「活用する」「広げる」では、習得した知識・技能の活用や、学習したことを自他に当てはめ、再考するなど実践力の基礎づくりとなるような工夫が見られる。
4 大 日 本	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、単元冒頭にある「学習のねらい」では、解決したい学習課題が示され、「話し合ってみよう」では、課題をもとに話し合いが展開できるなど、課題の解決に取り組むことができる工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得するために、本文を裏付け、知識を深める資料を本文と分けて掲載することで資料活用の幅を広げたり、学びの定着を図る動画コンテンツを設けたりするなど、理解を深める工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために「学びを活かそう」のページが設定しており、習得した知識・技能を活用して表現するなど、実践力の基礎づくりとなるような工夫が見られる。
50 大 修 館	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、単元冒頭にある「課題をつかむ」では、学習内容につながる気付きや思考を促すような見通しや興味・関心をもたせるなど、課題の解決に取り組むことができる工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、覚えておきたい専門用語を「キーワード」として明示してあったり、鮮明な写真やイラストで解説してあったりするなど、理解を深める工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、深い思考を促す「関連」のコーナーや学びをもとに思考を深める「学習のまとめ」が設定してあるなど、実践力の基礎づくりとなるような工夫が見られる。

224 学 研	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、単元冒頭にある「課題をつかむ」では、普段の生活や経験から課題に気付かせ、「考える・調べる」では、対話的な学びができるようにするなど課題の解決に取り組むことができる工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「教科書サイト」のコンテンツで学習支援をしたり、学びをもとに知識を身に付けることができるような「実習」のコーナーを設けたりするなど、理解を深める工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、学習のまとめとして「まとめる・深める」が設定してあり、目標を立てたり、人に伝えたりするなど、実践力の基礎づくりとなるような工夫が見られる。
---------	---

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 学習効果や利便性を高めるために、1 単位時間の内容も見開き 2 ページに収めており、統一された学習の流れのレイアウトで、見通しをもって学習できるよう工夫されている。 また、特筆すべき点として、「キーワード」を 1 単位時間ごと及び巻末に掲載するとともに、技能のページを開設することで知識・技能の習得を促す工夫がされている。
4 大 日 本	(1) 学習効果や利便性を高めるために、1 単位時間の内容も見開き 2 ページに収めており、本文を左ページ、資料を右ページに区切って掲載することで、本文に集中できるよう工夫されている。 また、特筆すべき点として、ユニバーサルデザインに対応し、書体や色づかいに配慮する等、すべての生徒に対して分かりやすいよう工夫がされている。
50 大 修 館	(1) 学習効果や利便性を高めるために、1 単位時間の内容も見開き 2 ページに収めており、時間の見通しをもって学習できる分量を掲載することで、学習内容を明確にするよう工夫されている。 また、特筆すべき点として、ユニバーサルデザインに対応し、書体や色づかい、線の太さに配慮するとともに、大判の資料を充実させるよう工夫がされている。
224 学 研	(1) 学習効果や利便性を高めるために、1 単位時間の内容も見開き 2 ページに収めており、本文と資料のレイアウトを統一して掲載し、本文と資料の関連性が見えやすいよう工夫されている。 また、特筆すべき点として、ユニバーサルデザインを基本に、インクルーシブ教育の実現を目指し、資料・写真を充実させることでよりよい学びを支える工夫がされている。

4 地域の思いや願いに対する配慮

〔観点4〕 問題解決に向け、必要な情報を読み取り、考えを深め、判断し、積極的に表現する資質・能力を高めるためにどのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 学習の流れにおける「課題の解決」において学習のまとまりごとに。資料を基に考えたり、話し合ったりするための発問が、また、「活用する」においては、習得した知識・技能を活用して、より深く思考、判断、表現する学習活動が設定されているなど、必要な情報を的確に読み取りながら学びを深められるような工夫が見られる。 (2) 必要な情報を読み取る力や活用して考えをまとめたり、深めたりする力を育成するために、1単位時間における資料とともに「章末資料」として各章の学習に関連した資料が豊富に掲載されている。また、思考を促すキャラクターの発言や、資料を深く読み取るための視点を「ポイントマーク」として示すなど読解力を高められるような工夫が見られる。 (3) 1単位時間の学習において、習得した知識・技能を活用して取り組む学習活動として「活用する」を設定し、考えたり、発表・説明したり、話し合ったりすることを通して、表現力を高めるような工夫が見られる。
4 大日本	(1) 学習の流れにおける「やってみよう・話し合ってみよう・調べてみよう」において資料を参考に考えたり、話し合ったり、書き出したりする活動が、また、「活用して深めよう」においては、学習したことを整理し、自分の生活に生かす活動が設定されているなど、必要な情報を的確に読み取りながら学びを深められるような工夫が見られる。 (2) 必要な情報を読み取る力や活用して考えをまとめたり、深めたりする力を育成するために、1単位時間における資料とともに「章末資料」として各章の学習に関連した資料が豊富に掲載されている。また、学習内容に関連した情報を「ミニ知識」として紹介したり、問いや例示の意図を汲んだ活動を取り入れたりするなど、読解力を高められるような工夫が見られる。 (3) 章ごとに習得した知識・技能を活用して取り組む学習活動として「学びを活かそう」を設定し、問いや例示の意図を汲み取り組む中で、広く設けられた記入欄を活用することを通して、表現力を高めるような工夫が見られる。

50 大修館	(1) 学習の流れにおける「課題をつかむ」において、多様な導入活動の提示と学習活動につながる気づきや思考を促す発問が、また、「学習のまとめ」においては、学習したことをもとにして、考えを広げたり深めたりすることができるような学習課題が設定されているなど、必要な情報を的確に読み取りながら学びを深められるような工夫が見られる。 (2) 必要な情報を読み取る力や活用して考えをまとめたり、深めたりする力を育成するために、1単位時間における資料とともに「特集資料」として本文の学習に関連した資料が豊富に掲載されている。また、思考を促すキャラクターの発言や、「体育の窓」や「保健の窓」を設け、見方・考え方を働かせて活動する場面を設定するなど読解力を高められるような工夫が見られる。 (3) 1単位時間の学習において、「学習のまとめ」を設定し、自分の意見を発表したり、グループで話し合ったり、友人にアドバイスしたり、社会の取組を調べたりするなど多様な活動を通して、表現力を高めるような工夫が見られる。
224 学 研	(1) 学習の流れにおける「考える・調べる」において資料を参考に考えたり、調べたり、話し合ったりする活動が、また、「まとめる・深める」においては、学習のまとめとして、人に伝えたり、さらに考えたりすることにより、実生活につなげる活動が設定されているなど、必要な情報を的確に読み取りながら学びを深められるような工夫が見られる。 (2) 必要な情報を読み取る力や活用して考えをまとめたり、深めたりする力を育成するために、1単位時間における資料とともに「探究しようよ！」コーナーにおいて各章の学習に関連した詳しい資料が豊富に掲載されている。また、思考を促すキャラクターの発言や、各時間にある作業課題の随所に「見方・考え方」を示すなど読解力を高められるような工夫が見られる。 (3) 1単位時間の学習において、習得した知識・技能を活用して取り組む学習活動として「まとめる・深める」を設定し、実生活につなげるための目標を立てたり、人に伝えたりすることを通して、表現力を高めるような工夫が見られる。

研究報告書

外国語（英語）

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 外国語科の目標を達成するために、各 Unit を「扉」「Preview」「Scene」「Mini Activity」「Read and Think」などで構成し、知識・技能の習得を図る工夫がなされている。 次に、「扉」では、「Point of View」において、単元を貫く問いを通して題材への興味を高めたり、「Small Talk!」では、即興で話す活動を通して表現力を高めたりする工夫がなされている。 また、積極的に世界とつながろうとする心を育むための「SDGs」（注1）に関連した題材や、他教科での学びを英語の視点で学ぶ「CLIL」（注2）に関する題材などを用いる工夫がなされている。
9 開隆堂	(1) 外国語科の目標を達成するために、各 Program を「とびら」「Scenes」「Think」「Retell」「Interact」で構成し、知識・技能の習得を図る工夫がなされている。 次に、「Scenes」では、場面絵を用いて新出表現をまとめて導入したり、「Try」「Interact」「Our Project」では、即興で話す活動を通して表現力を高めたりする工夫がなされている。 また、「世界の中の一市民」として豊かな心を育むための「SDGs」に関連した題材や、フィンランド訪問、海外の屋台料理などの異文化理解に関する題材などを用いる工夫がなされている。
15 三省堂	(1) 外国語科の目標を達成するために、各 Lesson を「とびら」「Get」「Use」で構成し、知識・技能の習得を図る工夫がなされている。 次に、「とびら」では、学ぶ内容への動機づけをし、学びに向かう力を高めたり、「Take Action! Talk」「USE Speak」では、即興で話す活動を通して表現力を高めたりする工夫がなされている。 また、現実の課題に対応できる人材を育む「SDGs」に関連した題材や、日本の漫画とアニメなどの生徒の知的好奇心や興味・関心に合わせた題材などを用いる工夫がなされている。

（注1）SDGs（2015年国連サミットで採択された17の持続可能な開発目標）

（注2）CLIL（内容言語統合型学習：他教科の学習内容を英語で学ぶ活動）

発 行 者	概 評
17 教 出	(1) 外国語科の目標を達成するために、各 Lesson を「扉」「Part」「Review」「Task」「Grammar」で構成し、知識・技能の習得を図る工夫がなされている。 次に、巻末の「Activities Plus」では、帯活動を活用し即興で話す力を身に付けさせたり、各 Part 末の「Project」では、4 技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫がなされている。 また、人や自然を大切に、共に生きていこうとする理念に基づく「SDGs」に関連した題材や、他教科や学校行事・活動と連携して学習できる題材などを用いる工夫がなされている。
38 光 村	(1) 外国語科の目標を達成するために、各 Unit を「扉」「Part」「Goal」で構成し、知識・技能の習得を図る工夫がなされている。 次に、各 Unit と帯教材「Story Retelling」を並行して学習することで、即興で話す力を高めたり、プロジェクト型の「You Can Do It!」の学習を通して表現力を高めたりする工夫がなされている。 また、世界への視野を広げ、国際理解を深める「World Tour」や「SDGs」など、実社会の問題に関連した題材や、他教科の学習等と結び付けた深い学びにつながる題材などを用いる工夫がなされている。
61 啓林館	(1) 外国語科の目標を達成するために、各 Unit を「とびら」「Part」「Read & Think」「Express Yourself」「More Information」で構成し、知識・技能の習得を図る工夫がなされている。 次に、「Let's Talk(Listen, Read)」では、各技能に関連付けて学習して表現力を高めたり、「Project」では、即興で聞き手を意識した言語活動を通して表現力を高めたりする工夫がなされている。 また、日本や世界で起こっていることや、人間のいとなみを知る「SDGs」に関連した題材や、他教科の学習等と結び付けた題材などを用いる工夫がなされている。

(注 1) SDGs (2015 年国連サミットで採択された 17 の持続可能な開発目標)

(注 2) CLIL (内容言語統合型学習：他教科の学習内容を英語で学ぶ活動)

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 自ら意思や情報を伝え合ったり、協働して問題解決に当たったりする活動として、「Read and Think」を設定するなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるように工夫がなされている。 (2) 「Grammar for Communication」では、「Use」「Form」「Let's Try!」など、コミュニケーションを支える文法や場面、文脈を意識した確認問題を設定するなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるように工夫がなされている。 (3) Unit後の「Stage Activity」では、学んだことを表現する活動や「話す」「書く」といったパフォーマンス活動を通して、未知の状況にも対応できる「思考・判断・表現等」の力を育成できるように工夫がなされている。
9 開隆堂	(1) 自ら本文を読んだ後に、多様なものの見方や考え方を共有できるような問いとして「Share」を設定するなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるように工夫がなされている。 (2) 「Scenes」では、つながるストーリーの設定で新出表現がどのような場面や状況、目的で使われるのか視覚的に理解できるようにするなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるように工夫がなされている。 (3) Program後の「Our project」では、身近な場面から社会的な場面まで英語を使う力を育てたり、振り返る段階「Go」を設定したりするなど、未知の状況にも対応できる「思考・判断・表現等」の力を育成できるように工夫がなされている。
15 三省堂	(1) 自ら読んだ内容について、自分の思いや考えを英語で話したり、書いたりする活動「in English」を設定するなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるように工夫がなされている。 (2) 「GET Plus」では、3コマのイラストを使用し、会話の中の表現と言語の働きを整理し、実際のコミュニケーションで活用する力を養うなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるように工夫がなされている。 (3) Lesson後の「Project」では、既習事項を活用する力を高めたり、「Take Action! Talk」「USE Speak」では、討論の場を設定したりするなど、未知の状況にも対応できる「思考・判断・表現等」の力を育成できるように工夫がなされている。

発 行 者	概 評
17 教 出	(1) 自ら主体的に英語を運用できるように、様々な話題の質問や応答例を練習する「Activities Plus」を設定するなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるように工夫がなされている。 (2) 「Tips」では、コミュニケーションを効果的に行う、4技能を高めるためのコツが練習場面とともに示されており、生きて働く「知識・技能」を習得できるように工夫がなされている。 (3) Lesson 後の「Project」では、主体的に課題解決する学習活動を設定したり、日常の場面を基にした「Useful Expressions」を設定したりするなど、未知の状況にも対応できる「思考・判断・表現等」の力を育成できるように工夫がなされている。
38 光 村	(1) 自分を対象に考えたり、友達や先生と対話しながら考えを深めていく「Think」の問いを各 Unit の本文の最後に設定したりするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫がなされている。 (2) 「Goal」では、身近なテーマを基に、身に付けた4技能を活用しながら表現活動を充実させる場を設定するなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるように工夫がなされている。 (3) Unit 後の「You Can Do It!」では、コミュニケーションの目的に応じて伝える内容や表現を協働して考える「Thinking」の活動を設定するなど、未知の状況にも対応できる「思考・判断・表現等」の力を育成できるように工夫がなされている。
61 啓林館	(1) ペアやグループで、自分の意見や考えを伝え合ったり、理解し合ったりする「Use」の活動場面を設定するなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるように工夫がなされている。 (2) 「Practice」では、新出表現について、絵を使って語彙や文法事項を適切に配置し、十分な練習が行える活動を設定するなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるように工夫がなされている。 (3) 単元末の「Express Yourself」では、学んだことを表現をしたり、単元後の「Project」では、長めの英語で発信したりする活動を設定するなど、未知の状況にも対応できる「思考・判断・表現等」の力を育成できるように工夫がなされている。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 既習の単語をまとめた「小学校の単語」、各題材の背景知識となる「column コラム」、自己表現に役立つ単語表現をまとめた「Tool Box」、音と文字の関係をおさえる「Sounds and letters」など、学習効果や使用上の利便性を高める工夫がなされている。また、「Grammar for Communication」や「学び方コーナー」、本文と単語の音声を読み込める「QR コード」を掲載し、生徒にとって分かりやすくなるような工夫がなされている。
9 開隆堂	(1) 自己表現に役立つ単語表現をまとめた「Word Web」や「Word Box」「Expression Box」、発音とつづりの関係を体系的に学ぶ「発音クリニック」など、学習効果や使用上の利便性を高める工夫がなされている。また、表現するための技能を身に付ける「Steps」やレッスン内の主な言語材料をまとめて確認できる「英語のしくみ」、本文の音声を読み込める「QR コード」を掲載し、生徒にとって分かりやすくなるような工夫がなされている。
15 三省堂	(1) イラスト付きの基礎的な語句をまとめた「Word Bank」、各題材の背景知識となる「Notes」、場面設定を活かした基礎的な会話練習を行う「GET Plus」など、学習効果や使用上の利便性を高める工夫がなされている。また、レッスン内の主な言語材料をまとめて確認できる「文法のまとめ」や自律的学習者を育てるための「For Self-study」、音声や動画を効果的に活用して学ぶ「QR コード」を掲載し、生徒にとって分かりやすくなるような工夫がなされている。
17 教 出	(1) 自己表現に役立つ単語表現をまとめた「Tool Kit」や「And More Words」、英語を聞くととき、読むとき、話すとき、書くときのコツやルールについて学ぶ「Tips」など、学習効果や使用上の利便性を高める工夫がなされている。また、読み物資料における注釈的な語句への日本語訳やレッスン内の主な言語材料をまとめて確認できる「Grammar」、本文の音声を読み込める「QR コード」を掲載し、生徒にとって分かりやすくなるような工夫がなされている。

発 行 者	概 評
38 光 村	(1) 自己表現に役立つ単語をまとめた「Word Board」、実社会に即したコミュニケーションの目的や場面・状況を設定した「Daily Life」など、学習効果や使用上の利便性を高める工夫がなされている。また、文構造や文法の知識を言語の使用場面と結び付けて整理した「Active Grammar」、本文スライドアニメや音声、帯教材「Let's Talk!」の実写映像等を読み込める「QR コード」を掲載し、生徒にとって分かりやすくなるような工夫がなされている。
61 啓林館	(1) 自己表現に役立つ語句をまとめた「Tool Box」や「Word Box」、日本語による情報コーナー「Notes」、Unit のテーマ・内容に関する補足資料「More Information」など、学習効果や使用上の利便性を高める工夫がなされている。また、各 Part の「Target」で学んだ文法を振り返る「Target のまとめ」、本文と新出語句の音声に加えて、文字も読み込める「QR コード」を掲載し、生徒にとって分かりやすくなるような工夫がなされている。

4 地域の思いや願いに対する配慮

〔観点4〕 問題解決に向け、主体的に学び、情報を読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 1 単元をとおして、各 unit の冒頭に Goal（題材と活動）を明示したり、各 scene では Unit に関連付けられた身のまわりにある多種多様な題材を取り上げたりするなど、主体的に学ぶ意欲が高められる工夫がなされている。 また、問題解決に向けて、「Read & Think」の場面では読解力を図ったり、「mini Activity や Unit Activity」では段階的に自分の言葉で表現したりするなど、主体的にコミュニケーション能力の基礎が定着できる工夫がなされている。
9 開隆堂	(1) 1 単元をとおして、各 Program の冒頭に、主としてコミュニケーション能力の Goal を明示したり、「Scenes」「Think」「Retell」「Interact」の構成の中で、段階的に活動の場面性をもたせたりするなど、主体的に学ぶ意欲が高められる工夫がなされている。 また、問題解決に向けて、「Retell」「Interact」の場面では、即興で話したり、目的と相手意識をもちながら自分の言葉で表現したりするなど、主体的にコミュニケーション能力の基礎が定着できる工夫がなされている。
15 三省堂	(1) 1 単元をとおして、各 Lesson の冒頭に「GET POINT」「USE Read」「USE Speak/Write」ごとに学習課題のポイントや見通しを明示したり、題材に沿った 4 技能を習得するための構成にしたりするなど、主体的に学ぶ意欲が高められる工夫がなされている。 また、問題解決に向けて、「take action」「Get Plus」「Word Bank」の学習活動が習得から活用へとつないだり、自分の言葉で自由に表現したりするなど、主体的にコミュニケーション能力の基礎が定着できる工夫がなされている。
17 教 出	(1) 1 単元をとおして、各 Lesson の Part の冒頭に「Goal」、「key sentence」、新出表現の「Notes」を明示したり、「Think & Try」では、本文をとおして思考を働かせて表現したりする場面設定をするなど、主体的に学ぶ意欲が高められる工夫がなされている。 また、問題解決に向けて「Useful Expression」や「Project」ではまとまりのある表現を学習したり、特定の場面でよく使用される表現についてスキットをとおして身に付けたりするなど、主体的にコミュニケーション能力の基礎が定着できる工夫がなされている。

発 行 者	概 評
38 光 村	(1) 1 単元をとおして、各 unit の冒頭に 4 技能 5 領域の重点目標を明示したり、本文の内容と関連付けながら「Listen」「Speak」「Writing」の順で言語活動を活用したりするなど、主体的に学ぶ意欲が高められる工夫がなされている。 また、問題解決に向けて Unit の本文で学習した内容と言語材料に関連付けながら、「Dairy Life」や「You Can Do It!」では、4 技能 5 領域の表現する場面を適宜設定したりするなど、主体的にコミュニケーション能力の基礎が定着できる工夫がなされている。
61 啓林館	(1) 1 単元をとおして、各「Unit と Part」の冒頭には、学習到達目標を明示したり、「Get Ready」「Target」「Practice」「Use」が有機的につながり、知識・技能の習熟・定着・活用を図ったりするなど、主体的に学ぶ意欲が高められる工夫がなされている。 また、問題解決に向けて unit の構成と関連付け、「Read&Think」で読解力を図ったり、「Express Yourself」で身のまわりのことについて、自分の言葉で適宜自由に表現したりするなど、主体的にコミュニケーション能力の基礎が定着できる工夫がなされている。

研究報告書

道德

1 道徳科の目標の達成及び教材の構成・配列等

〔観点1〕 中学校学習指導要領に示された道徳科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 道徳科の目標を達成するために、全学年に「いじめ問題」「生命尊重」に関する3つの教材をユニット化することを通して、1つのテーマを深く学習できるように構成するなど、内容項目の関連を図りながら指導できるような構成・配列の工夫が見られる。
17 教 出	(1) 道徳科の目標を達成するために、取り組みやすさを重視した内容と分量で構成されており、生徒の心を揺さぶる読み物教材や問題解決的な学習を取り入れた教材を配置するなど、学びやすく、教えやすい教材の構成・配列の工夫が見られる。
38 光 村	(1) 道徳科の目標を達成するために、1年間を3つのシーズンに分け、関連性の深い内容項目が有機的に結び付く教材を複数配置することで、生徒の成長や問題意識に寄り添いながら学びが深まるような構成・配列の工夫が見られる。
116 日 文	(1) 道徳科の目標を達成するために、重要なテーマとして「『いじめ』と向き合う」「よりよい社会と私たち」を配置し、複数の教材やコラムをユニット化するなど、1年間の学習の流れを重視しながら、より深い学びが得られるような構成・配列の工夫が見られる。

発 行 者	概 評
224 学 研	(1) 道徳科の目標を達成するために、特に「生命の尊さ」を重点的に扱い、他の内容項目とともに「いのちの大切さ」を考えさせる教材を複数配置するなど、多面的・多角的に考えることができるような構成・配列の工夫が見られる。
232 廣あかつき	(1) 道徳科の目標を達成するために、喫緊の教育的課題である「いじめ防止」との関連を考慮し、「自主、自律、自由と責任」「思いやり、感謝」「生命の尊さ」「よりよく生きる喜び」を重点項目とし、年間を通して複数配置するなどの構成・配列の工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的に自分とのかかわりで考えたり、多面的・多角的に考えたりできるような学習活動を展開するために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) いじめ問題については、「生命尊重ユニット」と「いじめ問題対応ユニット」を設定し、意図的な視点や意見を提示することで、多面的・多角的に考えたり、主体的に自分とのかかわりで考えたりできるなどの工夫が見られる。 (2) 多面的・多角的に考えることができる学習活動を展開させるために、新聞の投稿欄の記事をもとにした教材や、漫画の表情やセリフを考える教材を活用するなど、さまざまな視点から学習することができる工夫が見られる。
17 教 出	(1) いじめ問題については、3年間を通して、いじめを直接的に扱った教材や間接的に考えさせる教材、道徳科の時間以外でも活用できるコラムを配置するなど、生徒自身が問題意識をもち、主体的に自分とのかかわりで考えることができる工夫が見られる。 (2) 多面的・多角的に考えることができる学習活動を展開させるために、教材末の「学びの道しるべ」では、何を、どのように考え、話し合っていくのか、学習の流れや発問例が分かりやすく示されているなどの工夫が見られる。
38 光 村	(1) いじめ問題については、例えば「深めたいむ」において、日常に起こりがちな問題場面を取り上げることで、自己も他者も大切に生きることを考えさせ、情報モラルとも関連させるなど、主体的に自分とのかかわりで考えることができる工夫が見られる。 (2) 多面的・多角的に考えることができる学習活動を展開させるために、全学年に「広げよう」を設け、一つの答えが出ない課題や、解決が難しい課題、生徒に考えてもらいたい現代的な課題を取り上げるなどの工夫が見られる。
116 日 文	(1) いじめ問題については、3年間を通して、いじめが起きやすい時期に、生徒にとって身近な問題を扱った教材やいじめへの理解を深めるコラムなどを複数配置することで、主体的に自分とのかかわりで考えることができる工夫が見られる。 (2) 多面的・多角的に考えることができる学習活動を展開させるために、生徒にとっての身近な問題や、社会で活躍する人々について、「社会への参画」と「将来の生き方」の視点から教材をユニット化するなどの工夫が見られる。

発 行 者	概 評
224 学 研	(1) いじめ問題については、特設ページ「クローズアッププラス」で、「生命の尊重」「いじめ防止」につながる３つのテーマを扱うなど、他者とよりよく生きることや、主体的に自分とのかかわりで考えることができる工夫が見られる。 (2) 多面的・多角的に考えることができる学習活動を展開させるために、考えを深めさせる問いかけを示した「？ボックス」や「！ボックス」、教材をもとに考えを深めさせる特設ページ「深めよう」を設けるなどの工夫が見られる。
232 廣あかつき	(1) いじめ問題については、巻末に「いじめを許さない私たちの心」を配置し、道徳の内容に示された４つの視点から考えを深めたり別冊資料でグラフや構造図を用いたりするなど、主体的に自分とのかかわりで考えることができる工夫が見られる。 (2) 多面的・多角的に考えたりすることができる学習活動を展開させるために、「問題解決的な学習」や役割演技・動作化などを通して深く考える「体験的な学習」を促す教材を配置するなど、道徳的諸価値を深めることができる工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 利便性や生徒にとっての分かりやすさについては、巻頭で「話し合いの手引き」や基本的な授業の流れを示した「道徳の授業はこんな時間に」を設けるなど、主体的・対話的な学習を進めるための工夫が見られる。 また、各教材に自分の考えや思いを書き込む「つぶやき」の欄や巻末に「自分の学びを振り返ろう」を設けることで、学習を継続的に深められ、成長の記録として活用することができるなどの工夫が見られる。
17 教 出	(1) 利便性や生徒にとっての分かりやすさについては、巻頭に、「道徳科で学びを深めるために」を設け、多様な考えを深めていく学習場面を例示することで、人間としての生き方について考えを深めるための工夫が見られる。 また、学習の感想を記入する「授業の記録」や、「道徳の学びを振り返ろう」を巻末に設けることで、学びを振り返り、自分のよさや課題に気付くなど自己を見つめ直すことができる工夫が見られる。
38 光 村	(1) 利便性や生徒にとっての分かりやすさについては、巻頭に「道徳の授業を始めよう」、「どうやって学ぶの?」や「なぜ学ぶの?」を設け、学びを見通し、目的意識をもって授業に向かうことができるような工夫が見られる。 (2) また、「道徳の学びを振り返ろう」のページやポートフォリオ形式の「学びの記録」を巻末に設け、考えたことや感じたことを書き込ませていくことで、自ら考えを深めたり、成長を実感できる記録として活用したりできるなどの工夫が見られる。
116 日 文	(1) 利便性や生徒にとっての分かりやすさについては、巻頭に「道徳科で学ぶこと」や「道徳科での学び方」を設けることで、生徒が「考え、議論する道徳」の基礎・基本を理解し、主体的に学習に取り組むことができるなどの工夫が見られる。 また、別冊の「道徳ノート」では、生徒の学習状況や考え方の変化などを毎時間記録することができ、さらには、自分と友達の意見を書く欄を設けることで、自分の意見と友達の意見を比べて考えることができるなどの工夫が見られる。

発 行 者	概 評
224 学 研	(1) 利便性や生徒にとっての分かりやすさについては、巻頭に学び方や学ぶ内容を想起できる「明日への扉を開く」や「よりよく生きるための22の鍵」を設けることで、考えを深める4つのポイントを押さえながら、主体的に学習に取り組むための工夫が見られる。 また、各教材の問いに対して自分の考えを記入できる書き込み欄や巻頭に「マイプロフィール」、巻末に「心の四季」と「学びの記録」を設けることで、年間を通して自分の成長を実感することができるなどの工夫が見られる。
232 廣あかつき	(1) 利便性や生徒にとっての分かりやすさについては、例えば2年生の巻頭に「自分を考えようー道徳の時間とは」を設け、道徳科における学習活動や考える視点を具体的にイメージできるなどの工夫が見られる。 また、別冊の「道徳ノート」では、授業で考えたことや感じたことを記述する「学習の記録」や、教材ごとに学びを振り返る「心のしおり」を設けることで、心の記録として自己の成長に気付かせることができるなどの工夫が見られる。

4 地域の思いや願いに対する配慮

〔観点4〕 問題解決に向け、主体的に学び、情報を的確に読み取ったり、積極的に表現したりする資質・能力を高めるためにどのような工夫がみられるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 主体的に学び、情報を的確に読み取ることができるように各教材冒頭にテーマを示し、そのテーマを深めるための材料として教材文や漫画を読み、最後の設問に示された2つの問いを通して考えさせる構成上の工夫が見られる。 (2) また、積極的に表現できる資質・能力を高めるために役割演技や体験的な学習を主体とした「ACTION!」のページを用意し、テーマについて協働させ、さらに考えを深めさせるための工夫が見られる。
17 教 出	(1) 主体的に学び、情報を的確に読み取ることができるように各教材の冒頭にテーマとは別に「導入」の文章を設け、学習のねらいを明確にして教材内容に入れるよう、教材ごとの問いかけに変化を与える工夫が見られる。 (2) また、積極的に表現できる資質・能力を高めるために教材の末尾に「学びの道しるべ」を設け、教材理解だけでなく物事を自分に引きつけて様々な角度から考えたり、対話的な学びを深めたりできるような発問の工夫が見られる。
38 光 村	(1) 主体的に学び、情報を的確に読み取ることができるように「考えよう」で、道徳的な課題を明らかにする問いや道徳的な価値についての理解や自覚を深める問いが設定されており、教材を通して何を学ぶのか意識させる工夫が見られる。 (2) また、積極的に表現できる資質・能力を高めるために「深めたいむ」を設け、読み物教材で学んだ道徳的価値を、活動を通して確かめ、さらに深く実感を伴って考えることができるような工夫が見られる。
116 日 文	(1) 主体的に学び、情報を的確に読み取ることができるようにすべての教材文が「登場人物」「考えてみよう」「自分に+1」という3つのステップで構成されており、1時間の学習の流れと内容把握をしやすくする工夫が見られる。 (2) また、積極的に表現できる資質・能力を高めるために「問題解決的な学習」等の手法に適した教材には、「学習の進め方」を設け、別冊「道徳ノート」を併用することで言語活動を充実させ、考えや話し合いを深めさせる工夫が見られる。

発 行 者	概 評
224 学 研	(1) 主体的に学び、情報を的確に読み取ることができるように教材文にキープフレーズがつけられていたり、脚注欄には注釈や登場人物が書かれたりしており、興味を持たせたり、内容把握をしやすいしたりする工夫が見られる。 (2) また、積極的に表現できる資質・能力を高めるために教材名の前に主題名を示さないことで、生徒自らの気づきや考えを促したり、異なる複数意見を掲示したりして、多様な意見に触れながら考えや話し合いを深めさせる工夫が見られる。
232 廣あかつき	(1) 主体的に学び、情報を的確に読み取ることができるように学習の手がかりに設けられた「めあて」に内容項目が明示されているものと、されていないものとに分かれ、道德上の問題を明確に捉え、主体的に学習に取り組めるような工夫が見られる。 (2) また、積極的に表現できる資質・能力を高めるために教材ごとに「考える・話し合う」が設けられ、登場人物の心情の読み取りや生活体験の振り返りに終始するのではなく、人間としての生き方についての考えを深めさせる問いの工夫が見られる。